

卷末資料編



<計画策定（平成 25 年度）>

第 1 節	角田市民の意識調査	・・・ 1
第 2 節	スポーツ関係団体意見調査結果及び分析	・・・ 24
第 3 節	審議経過	・・・ 31
第 4 節	角田市スポーツ推進審議会委員名簿	・・・ 32

<計画改定（平成 30 年度）>

第 5 節	計画見直し（案）に関するパブリックコメント	・・・ 33
第 6 節	計画見直しに係る審議経過	・・・ 40
第 7 節	計画見直しにおける審議会委員名簿	・・・ 41
第 8 節	角田市スポーツ推進審議会条例	・・・ 42



角田市民の意識調査

調査概要

(1) 調査目的

「角田市スポーツ推進計画」を策定するにあたり、市民のスポーツに関する意見や要望、また、現状等の調査をするため

(2) 調査対象

- ① 母集団 平成25年7月1日現在、角田市に居住する満15歳以上の男女
- ② 標本数 1,000人
- ③ 地点数 角田市内（9自治センター区内）
- ④ 抽出方法 自治センター内の住民を無作為抽出(人口比による割当)

(3) 調査期間

配布日～平成25年10月15日まで

(4) 調査方法

行政区単位に配布した質問紙調査

(5) 調査内容

- ① 個人的属性 性別・年代・居住地域・職業
- ② スポーツ志向について
 - ・日常生活 余暇時間、健康への意識等
 - ・実施状況 実施の有無、実施時間、実施理由、実施種目・場所等
 - ・学校開放 施設の満足度等
 - ・総合型地域スポーツクラブ 関心・認知状況、
 - ・参加形態 「する」「観る」「支える」への趣向
 - ・情報提供 情報提供のあり方
- ③ 今後の施策や課題
 - ・方向性
- ④ その他

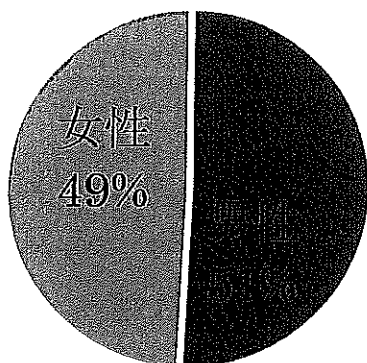
(6) 回答状況

		角田	横倉	小田	藤尾	枝野	東根	桜	北郷	西根	計
配布数	割当世帯数	130	50	20	40	30	25	50	50	40	435
	割当概数	360	110	30	90	60	40	110	120	80	1000
回答数	回収世帯数	53	30	12	27	19	16	34	32	22	245
	回答数	105	69	32	73	47	47	94	85	59	611
世帯回収率(%)		40.8	60	60	67.5	63.3	64	68	64	55	56.3
回答率(%)		29.2	62.7	106.7	81.1	78.3	117.5	85.5	70.8	73.8	61.1

調査結果及び分析

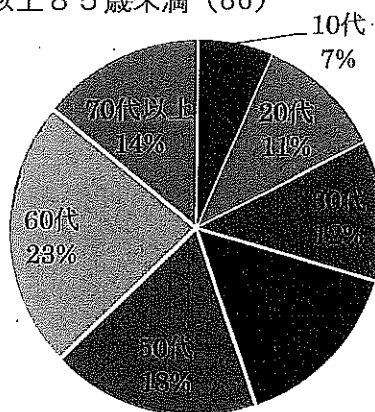
◇あなたの性別は

- 1 男性 (310)
2 女性 (301)

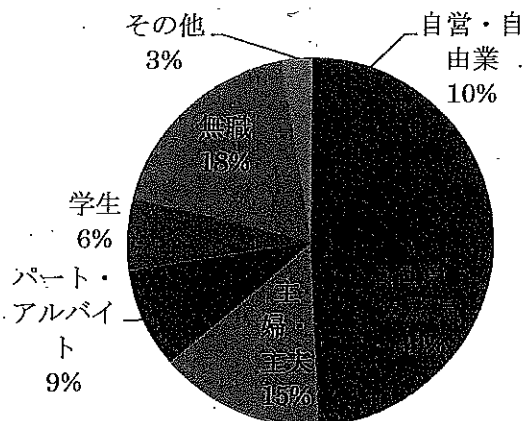


◇あなたの年齢は

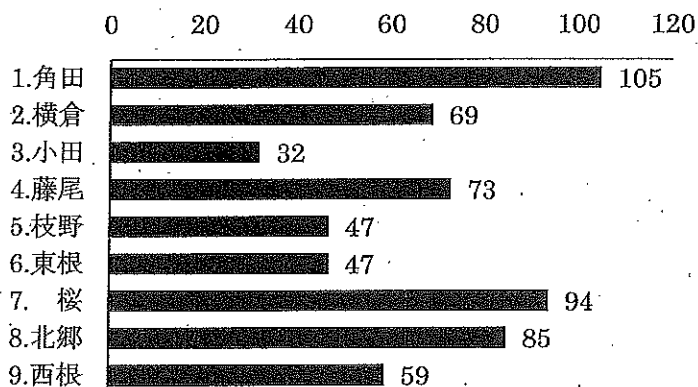
- 10代 (39) 20代 (68) 30代 (74)
40代 (92) 50代 (111) 60代 (141)
70代以上 85歳未満 (86)



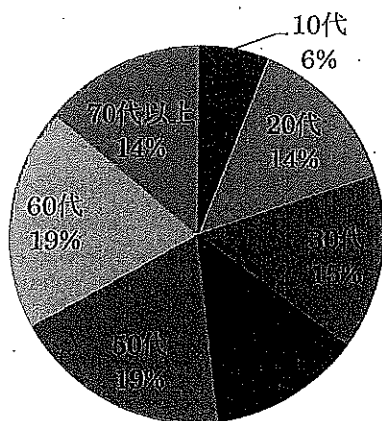
◇あなたの職業は



◇あなたのお住まいは

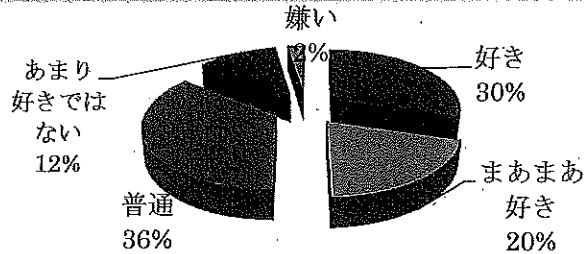


※角田市の年齢構成人口比

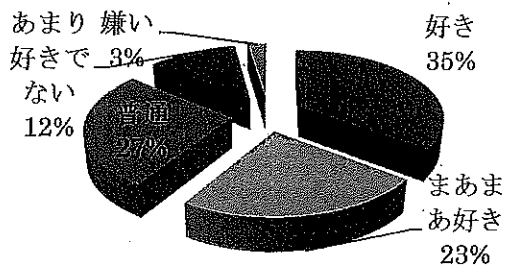


※平成24年3月の角田市の年代別の人口構成は左の図である。この表の数値と調査に協力していただいた年齢構成図(上記)を比較してみると、各年代における割合については殆ど差がなく、実態に即した範囲の調査になったと考えられる。回収率も6割を超えており、より現実的な実態把握ができたのではないかと推測できる。

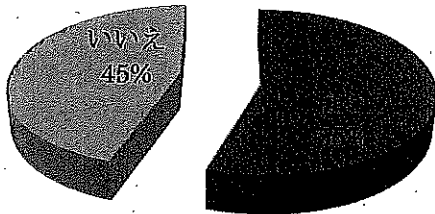
【問1】あなたは運動やスポーツをすることが好きですか。



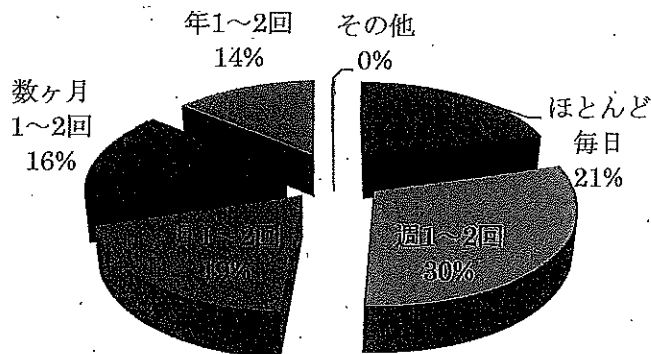
【問2】あなたはスポーツを観戦したりテレビで見たりラジオで聞いたりすることが好きですか。



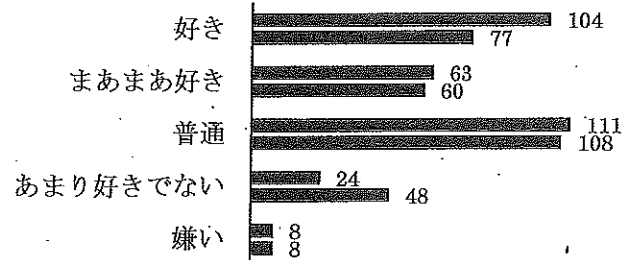
【問3】あなたはこの一年、運動やスポーツをしましたか。



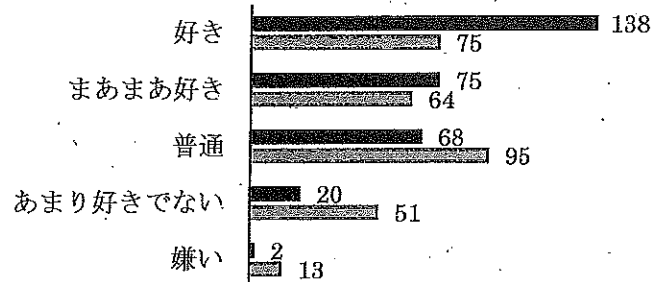
【問4】【問3】で「はい」の方、あなたはこの一年運動やスポーツをどのくらいしていますか。



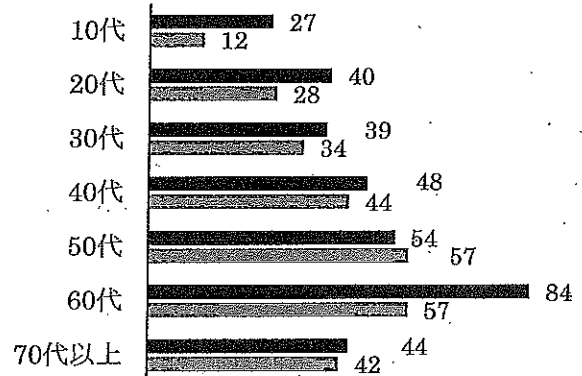
■男性 ■女性



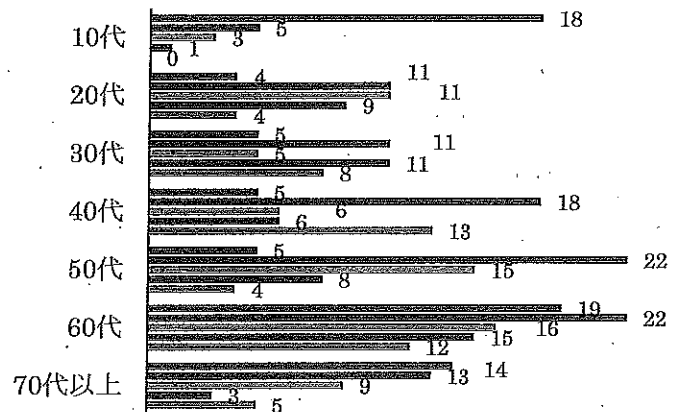
■男性 ■女性



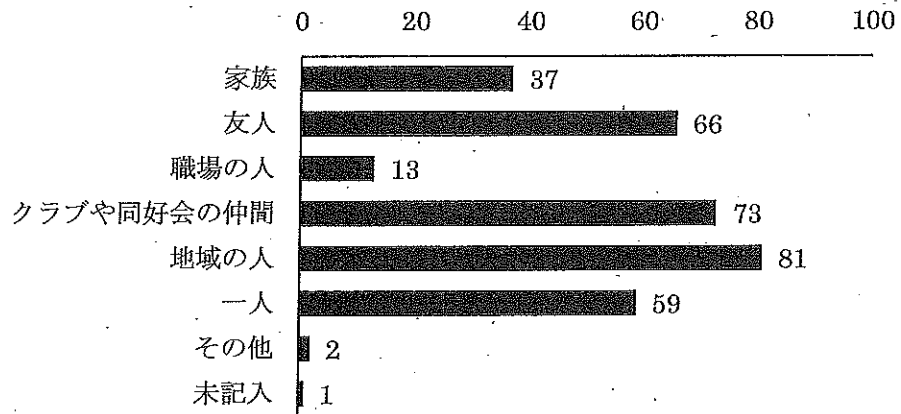
■はい ■いいえ



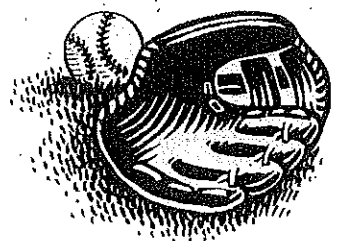
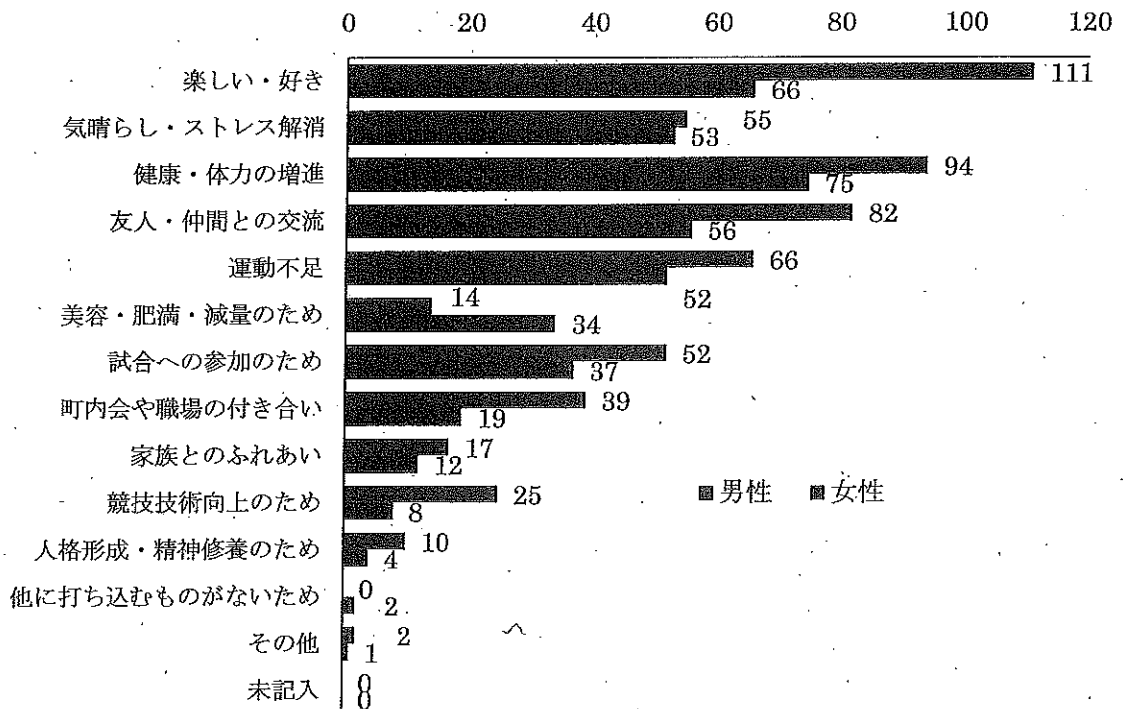
■ほとんど毎日 ■週1～2回 ■月1～2回
■数ヶ月1～2回 ■年1～2回



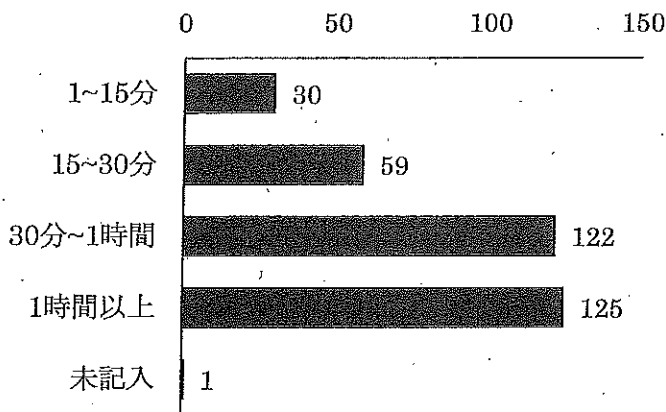
【問5】【問3】で「はい」の方、あなたがスポーツを行うとき主に誰と一緒にしますか。



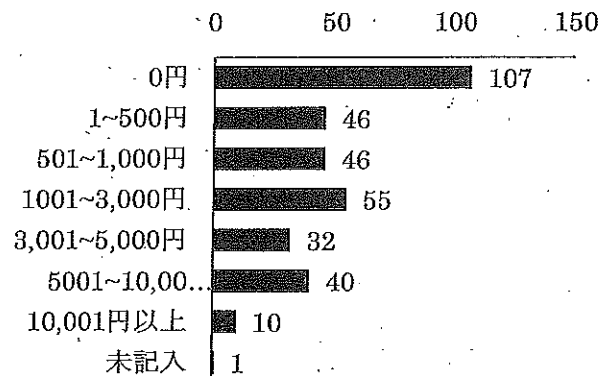
【問6】【問3】で「はい」の方、あなたがスポーツを行ったのはどのような理由ですか。(複数回答)



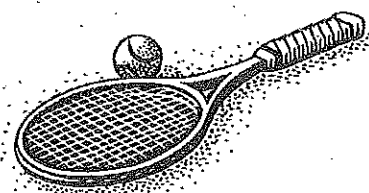
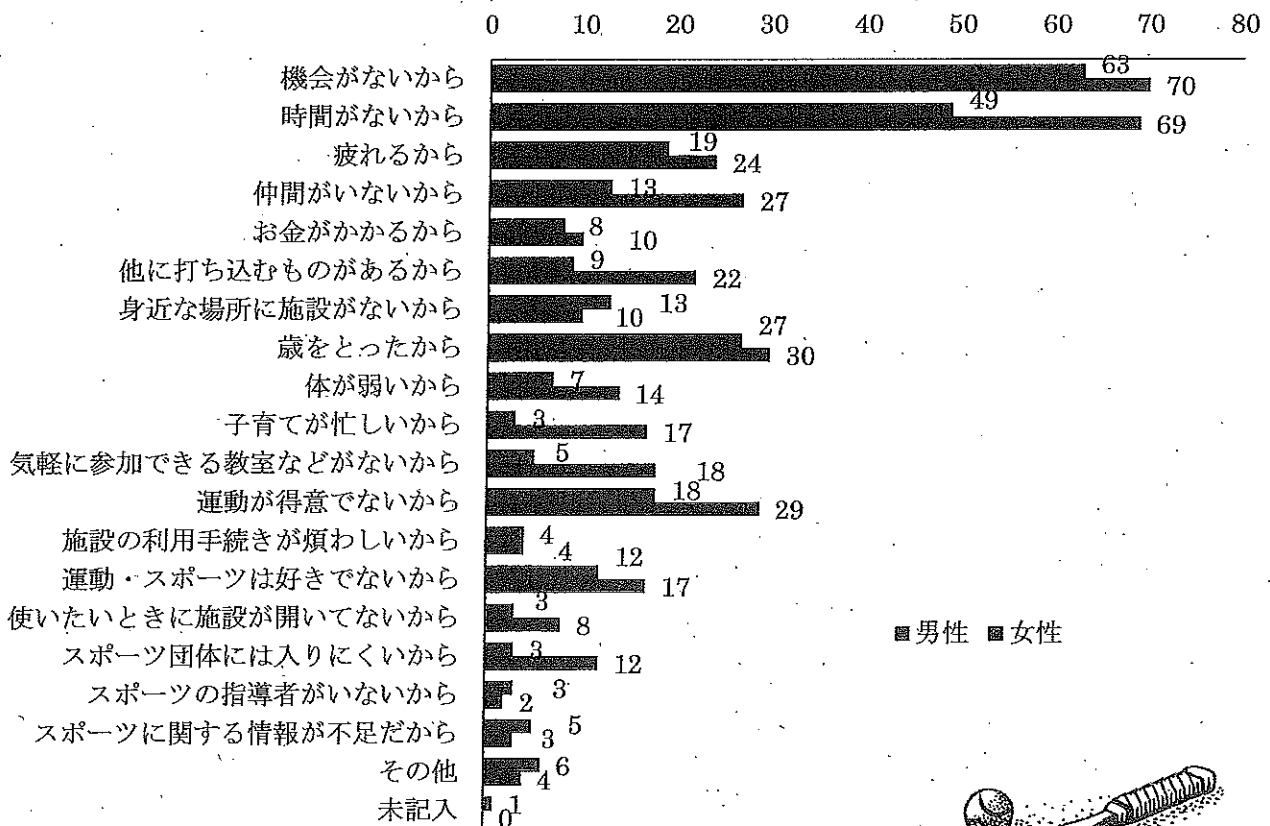
【問7】【問3】で「はい」の方、あなたがスポーツを行う時間は1日平均どのくらいですか。



【問8】【問3】で「はい」の方、あなたがスポーツを行うため、1ヶ月平均でいくらかかりますか。

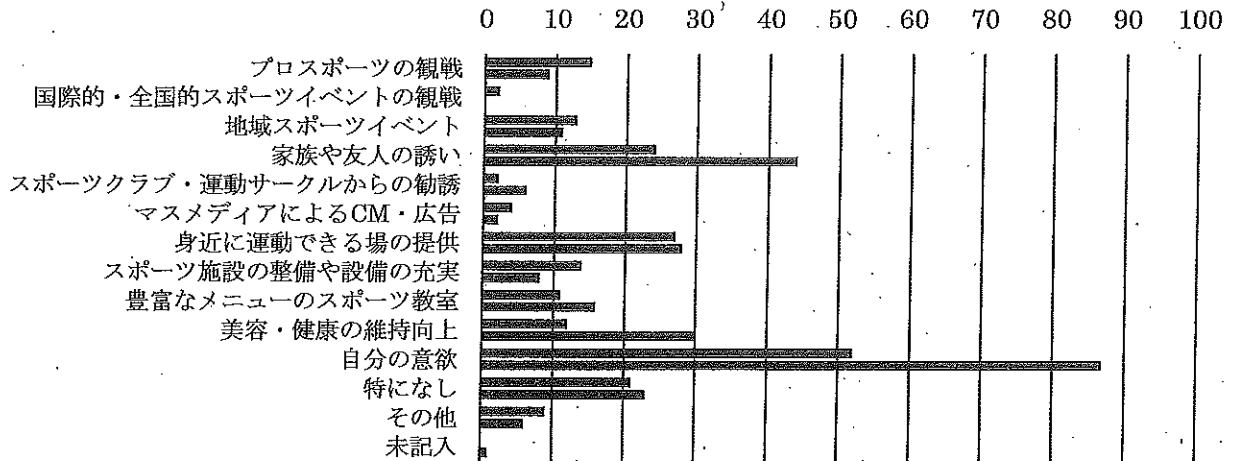


【問9】【問3】で「いいえ」の方、あなたがこの一年間スポーツをしなかったのはどのような理由からですか。(複数回答)



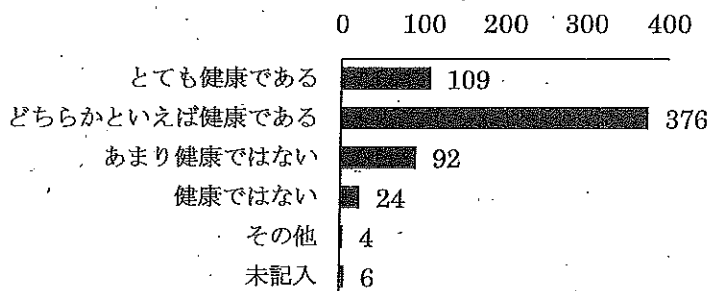
【問10】【問3】で「いいえ」の方、あなたがスポーツをするためにはどんなきっかけが必要ですか。

(複数回答)

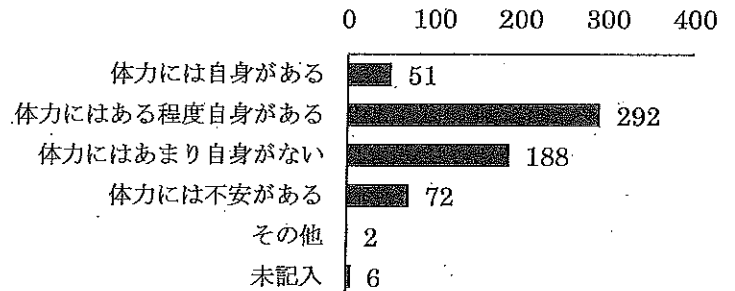


■男性 ■女性

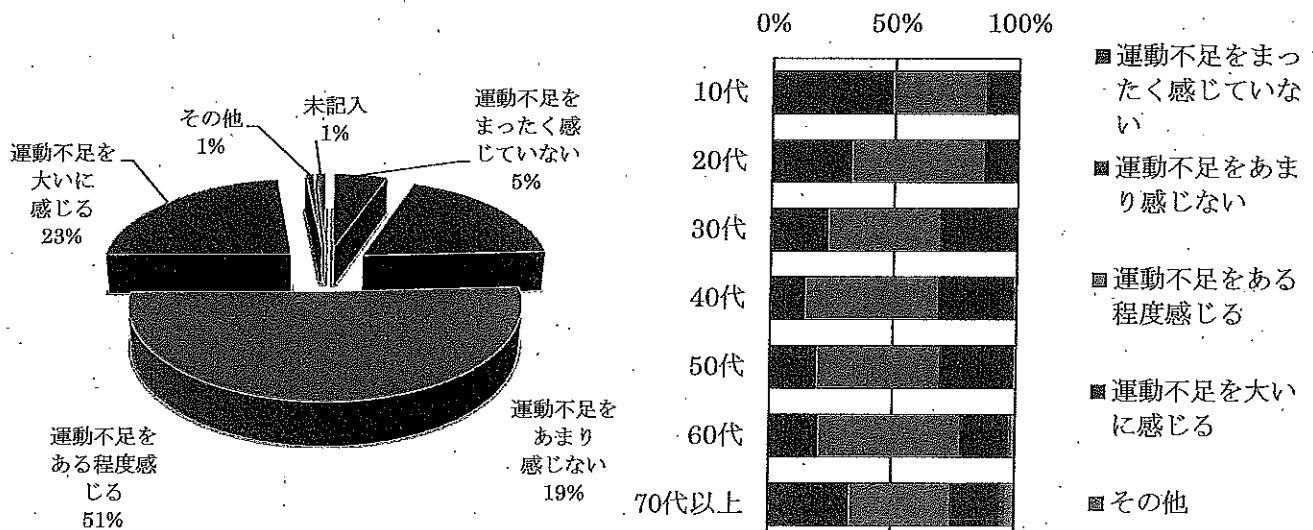
【問11】あなたはこの1年間の自分の健康はどうでしたか。



【問12】あなたは自分の体力についてどのように考えていますか。

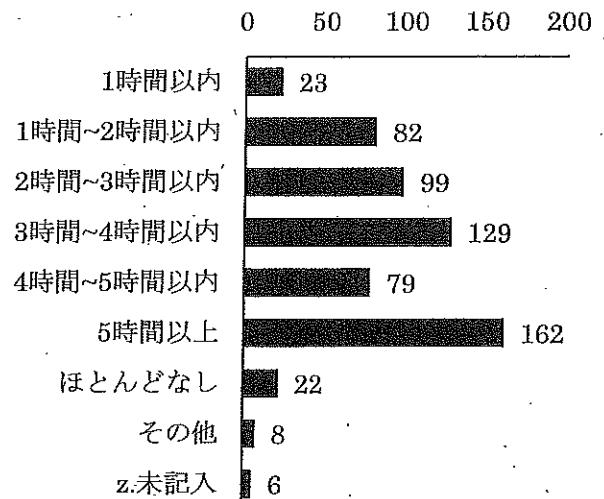
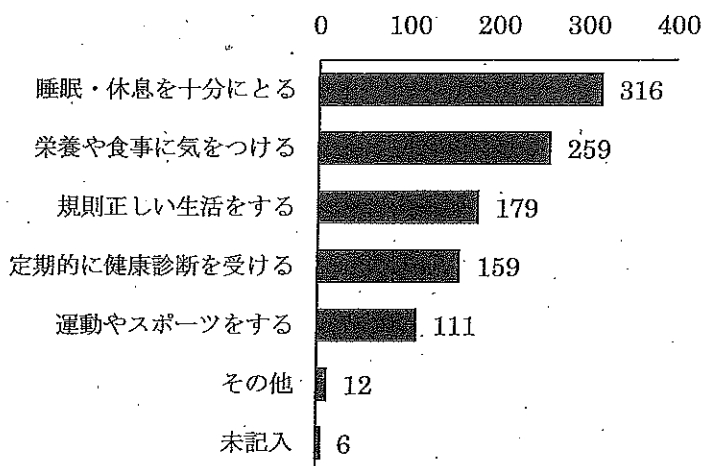


【問13】あなたは日頃、体調管理を考えたとき運動スポーツについてどのように感じていますか。



【問 14】あなたは健康を保つためどんなことを心がけていますか。(複数回答)

【問 15】あなたは休日の余暇の時間は平均してどのくらいありますか。



※運動やスポーツについての市民の関心(問1～問 16 まで)

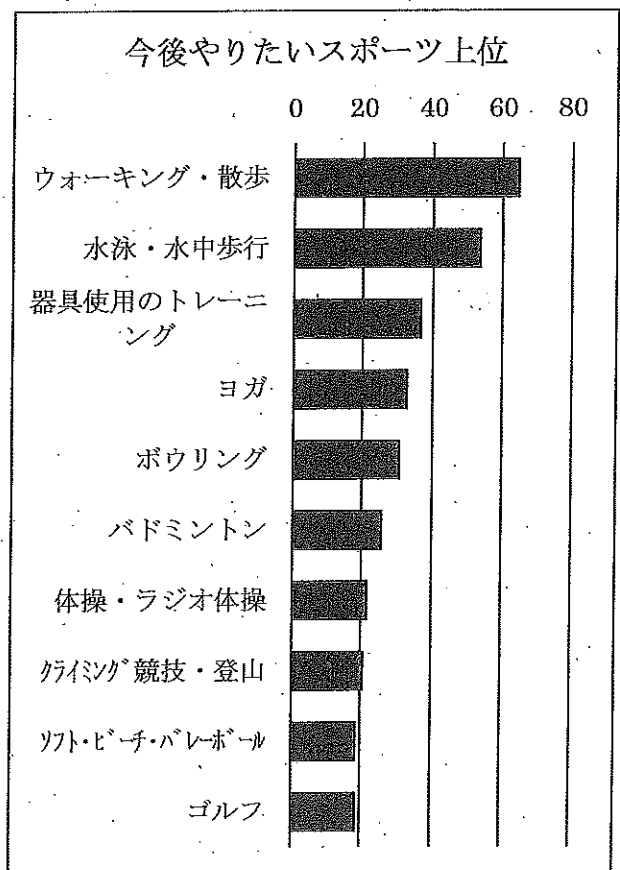
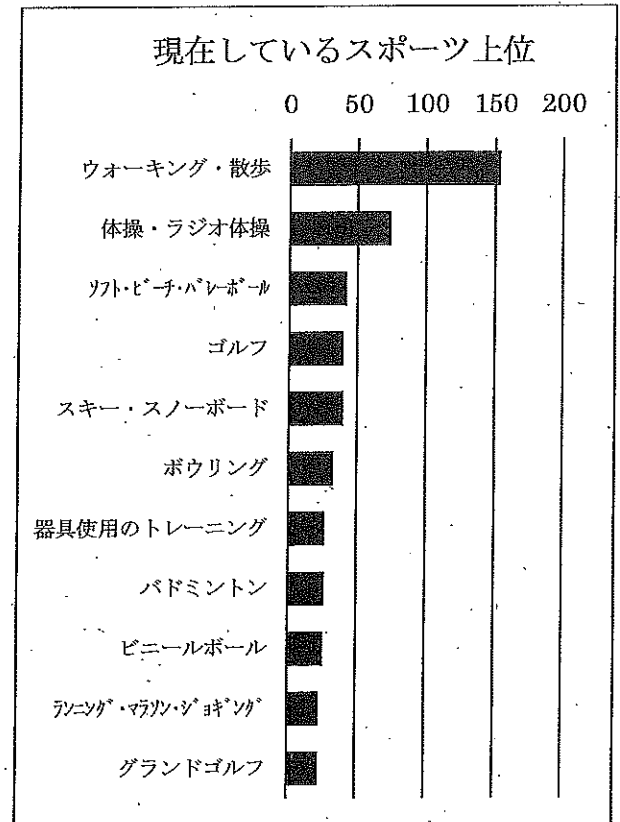
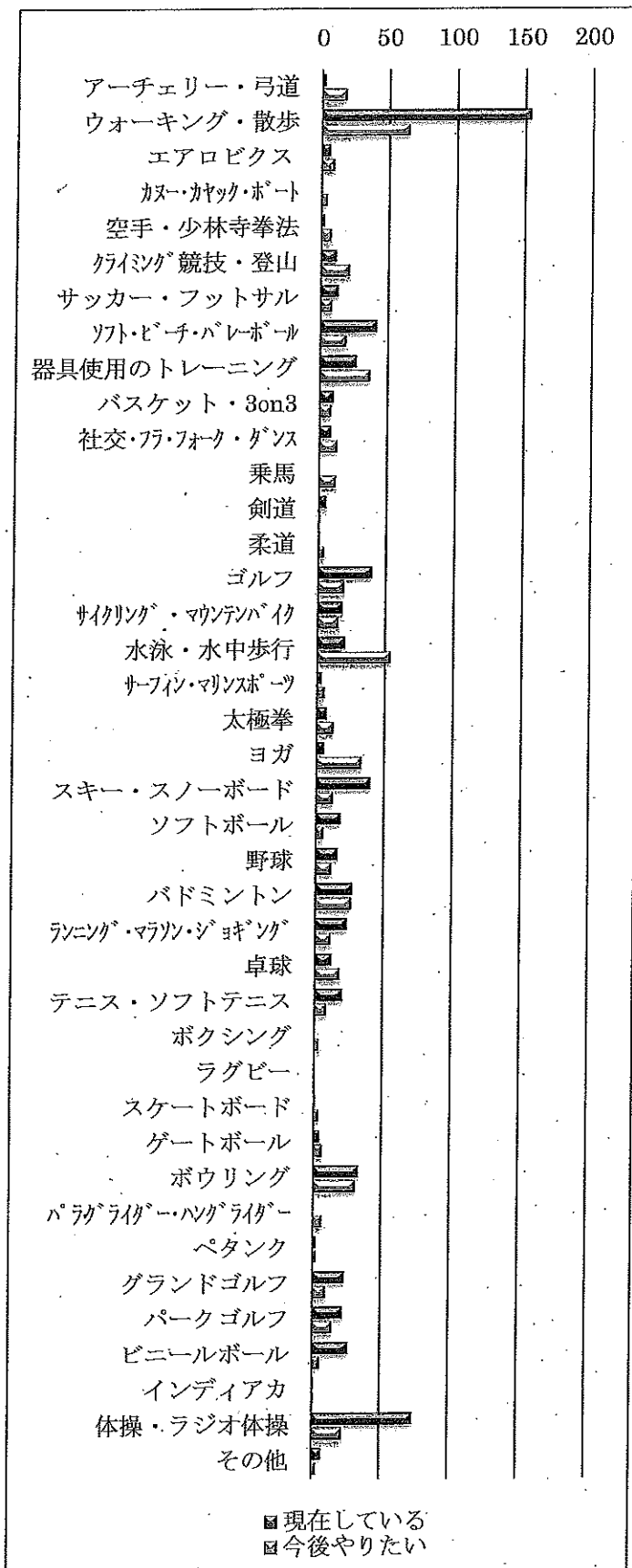
市民の運動志向についての結果は、スポーツ・運動をすることが「好き」30%と「まあまあ好き」20%で合わせて 50%、「普通」と合わせると 85%を超えている。また、スポーツ・運動を観戦することについても、「好き」35%、「まあまあ好き」23%、「普通」と合わせるとこれも 85%を超えており、スポーツに関して市民の関心度は高い値を示している。また、「この一年何らかのスポーツ・運動をした人」は 55%であり、半数をやや上回る結果である。

しかし、一年間のスポーツ・運動実施状況を見ると、「殆ど毎日」と「週1～2回」を合わせても全体では 28%であり、平成 21 年調査の全国平均値 45.3%を大きく下回っている。また、自分の体力については半数以上の人は自信があると回答しているが、75%の人は運動不足を感じていると回答している。スポーツ・運動をしなかった理由として、「機会がないから」が 20%、「時間がないから」が 18%で上位を占めている。休日に3時間以上余暇時間がある人は 60%に上り、5時間以上の人でも27%を占めていることから、働く世代は時間や機会がなく、その他の世代ではスポーツの機会を求めていることが窺える。

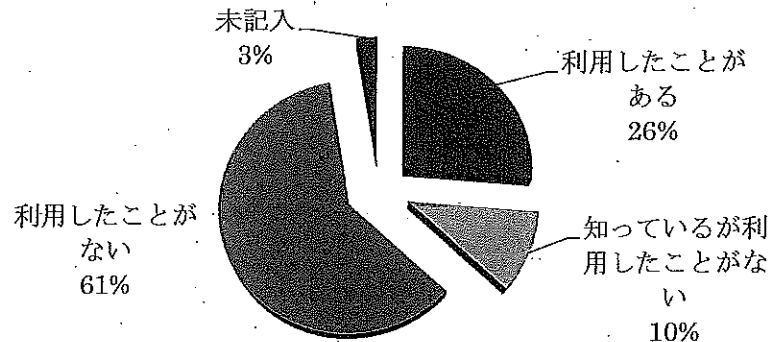
スポーツ・運動をすることについて分野別にまとめると、純粋に「好き・楽しいから」が 18%、「健康志向」が 45%、「競技志向」が 12%、「人間関係」が 22%であり、半数近くの人が健康を目的に取り組んでいる。また、30%の人々はお金をかけないでスポーツ・運動を行っている状況である。スポーツをするきっかけに必要なことは「自分の意欲」「身近に運動のできる場の提供」そして、「家族や友人の誘い」と続いている。一方、スポーツ・運動を行っている人の 82%は「誰かと一緒にする」と回答しており、コミュニケーションや人間関係も大切な要素を担っていることが分かる。

現在、行っているスポーツ・運動の上位は①ウオーキング・散歩、②体操・ラジオ体操、③バレーボール(家庭バレー、ソフトバレー、ビニールボールを含む。)、④ゴルフで、器具使用のトレーニングが上位10位以内に入っており、家庭用の健康器具が普及している状況が垣間見える。今後やりたいスポーツ・運動として、やはり①ウオーキング・散歩、②水泳・水中歩行、③器具使用のトレーニング、④ヨガと続いており、健康志向が強く出ていることを示している。

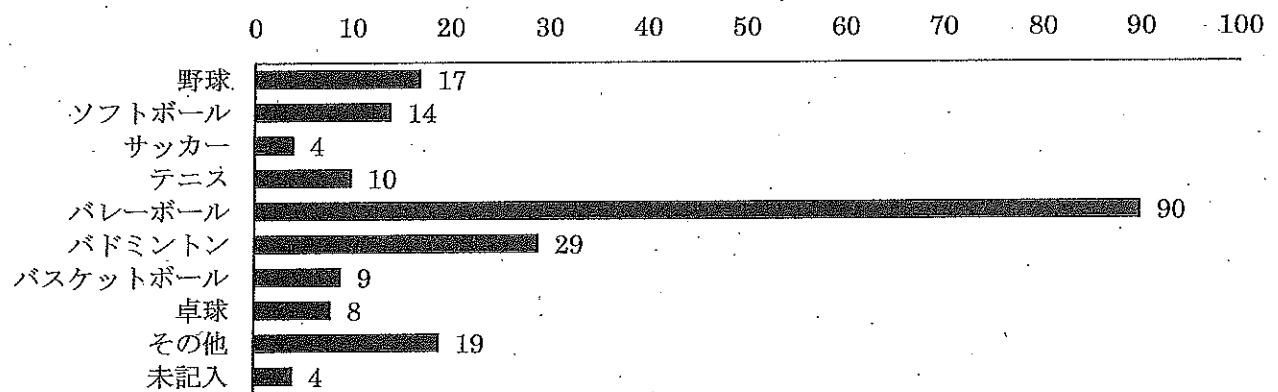
【問16】あなたがこの一年間スポーツをした種目と今後したい種目は何ですか。



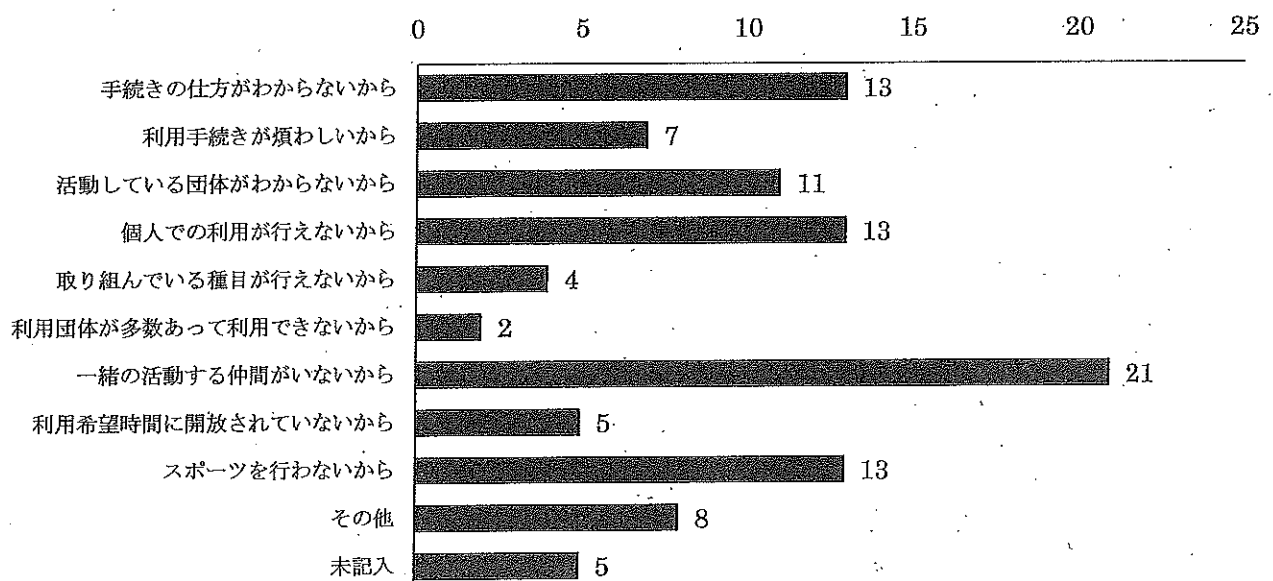
【問 17】あなたは学校開放事業を利用したことがありますか。



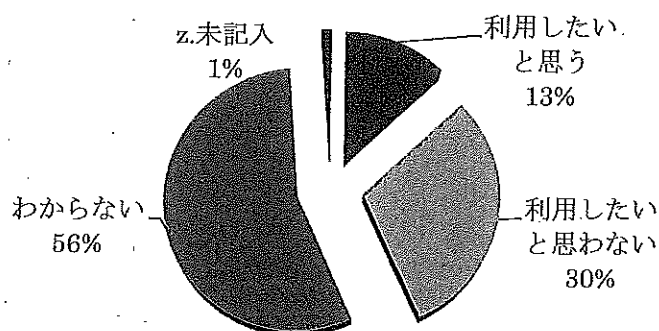
【問 18】あなたは学校開放事業で利用した種目は何ですか。(複数回答)



【問 19】あなたが学校開放事業を利用したことがないのはどのような理由からですか。(複数回答)



【問 20】あなたは学校開放事業を今後利用したいとおもいますか。



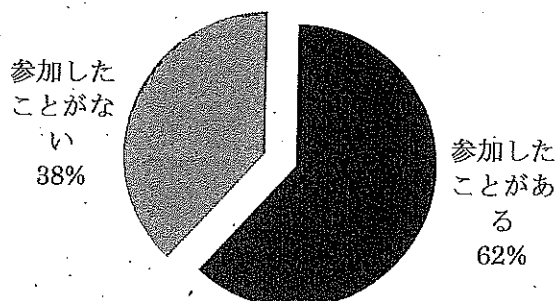
※学校開放事業についての市民の関心(問 17～問 20 まで)

現在、学校体育施設の体育館・グラウンドなどを、身近なスポーツ活動の場として開放している。利用頻度は高いが、「利用している人」は 26%、「利用したことがない人」は 60%に上ることから、限られた人たちが利用していることが窺える。

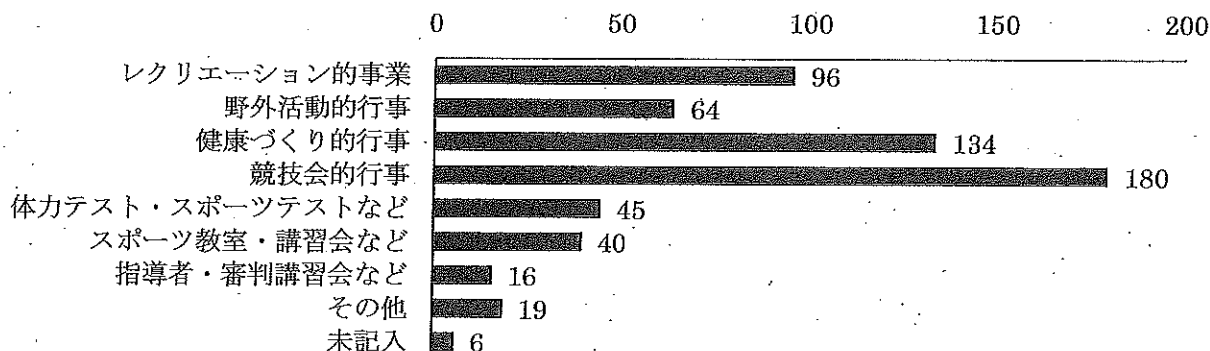
利用したことがある人は、「スポーツ少年団」や「地域の行事」、そして「地域の仲間の同好会やクラブ活動」である。利用したことがない人は、①仲間がいないから、②手続きが不明だから・③個人利用できないから・④スポーツをしないから、という理由が主である。

身近な場所として、より多くの方に効率的・効果的に利用していただけるように、運用方法や情報の提供などの改善策を図ることが求められている。

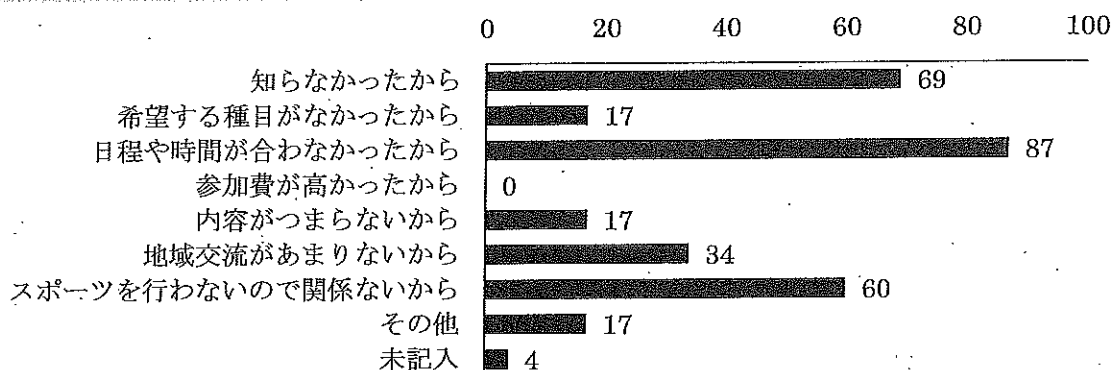
【問 21】あなたはこれまでに市や町内会などが開催したスポーツ・レクリエーションに参加したことがありますか。



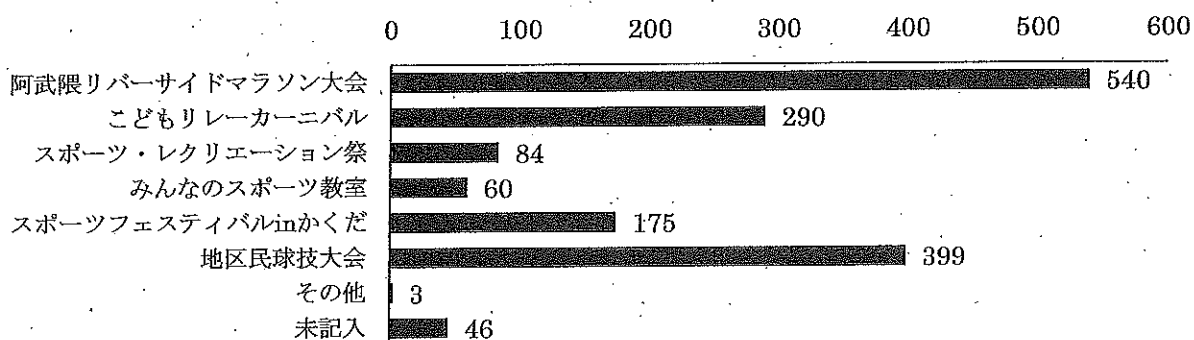
【問 22】今後、市や町内会などでスポーツが開催される場合、どのような行事に参加したいですか。(複数回答)



【問 23】市や町内会主催のスポーツ関係行事に参加されなかったのはどのような理由からですか。
(複数回答)



【問 24】角田市が開催している下記の事業をご存知ですか。(複数回答)



※市や町内会が主催するスポーツ・レクリエーション行事についての市民の関心 (問21～問24まで)

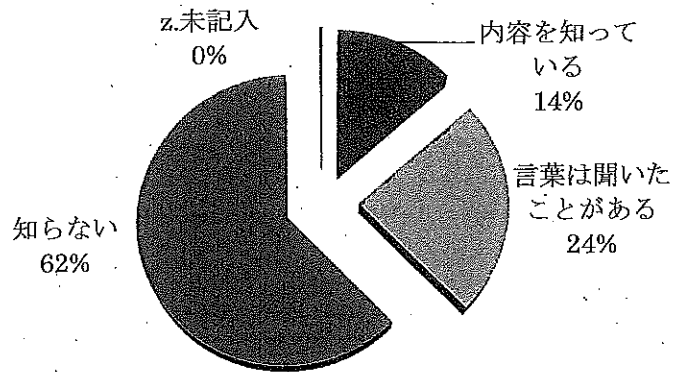
市や町内会主催のスポーツ・レクリエーションには、62%の人が「参加したことがある」と回答している。参加したい行事は①「競技会的行事」30%、②「健康づくり的行事」22%、③「レクリエーション的行事」16%が上位を占める。参加しなかった主な理由は、①「日程や時間が合わなかったから」29%、②「知らなかったから」23%、③「スポーツを行わない」が20%である。

市が開催している行事の認知度については、88%の人が「阿武隈リバーサイドマラソン大会」を知っており、65%の人が「地区民球技大会」、47%の人が「こどもリレーカーニバル」を知っていると回答した。

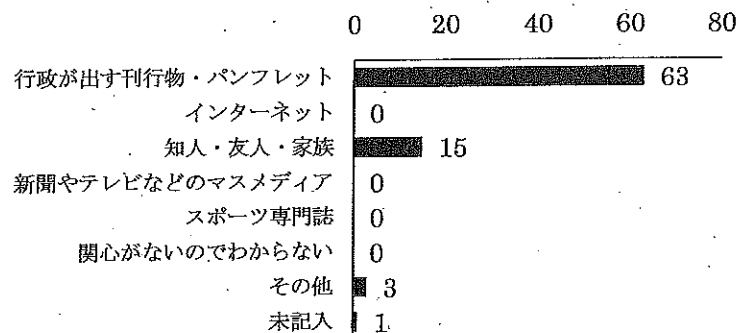
更に認知度を高め、「おらがまちのスポーツ」として定着を図るよう努めることが大切である。



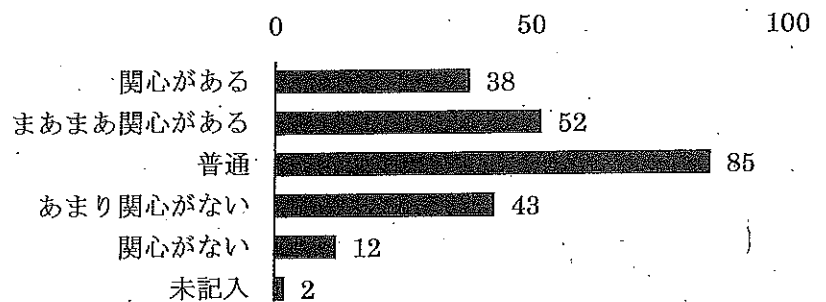
【問 25】「総合型地域スポーツクラブ(スポコムかくだ)」をご存知ですか。



【問 26】{知っている方へ}
「総合型地域スポーツクラブ(スポコムかくだ)」をどこで知りましたか。



【問 27】{内容を知っている、または言葉は聞いたことがある方へ}
あなたは「総合型地域スポーツクラブ(スポコムかくだ)」に関心がありますか。



※総合型地域スポーツクラブ「スポコムかくだ」についての市民の関心(問25～問27まで)

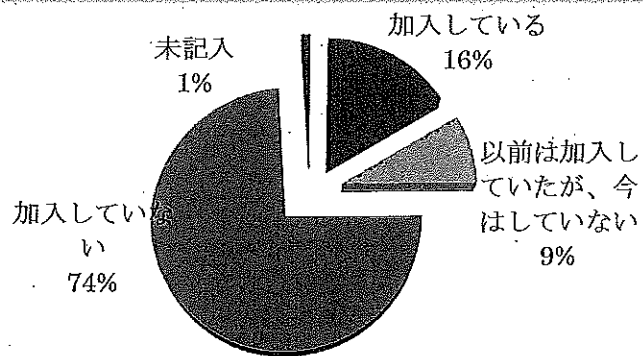
総合型地域スポーツクラブの認知度について、「内容を知っている」と回答したのは、僅か 14%であり、62%の人が「知らない」状況である。

総合型スポーツクラブとは、文部科学省が1995年より展開しているスポーツ振興施策の1つであり、複数の種目で、子どもから高齢者まで様々なレベルに合わせた活動を行い、地域住民が主体的に運営するものである。県教育委員会では、県内の各市町村に最低1つは設置する方針を示している。関心の度合いを見ると 16%の人が「関心がある」と回答し、「まあまあ関心がある」と「普通」を合わせると、75%の人が関心を示している。

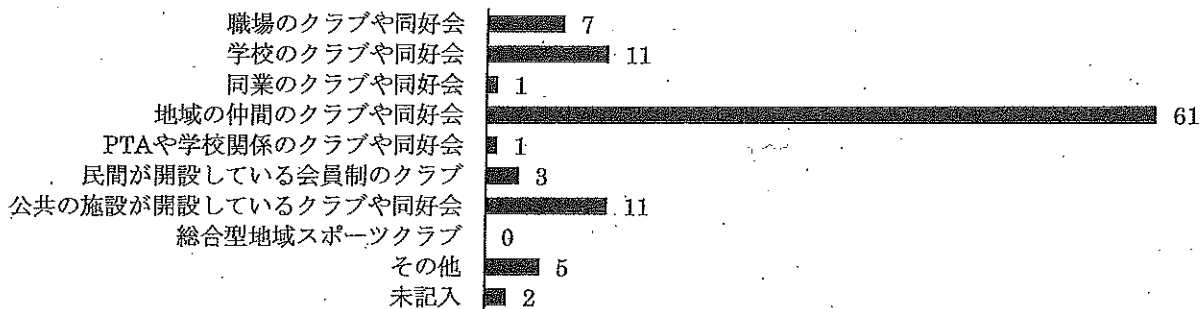
日常的にスポーツに親しみたい層が増えている状況の中で、特にスポーツをする仲間を求めている人々には適した組織であると思われる。

今後、情報不足の現状を解消し、様々な情報の提供を試みて、普及に努めることが肝要である。

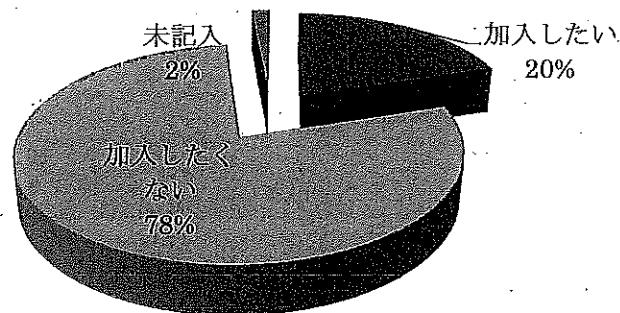
【問 28】スポーツクラブや同好会・サークルなどに加入(参加)されていますか。



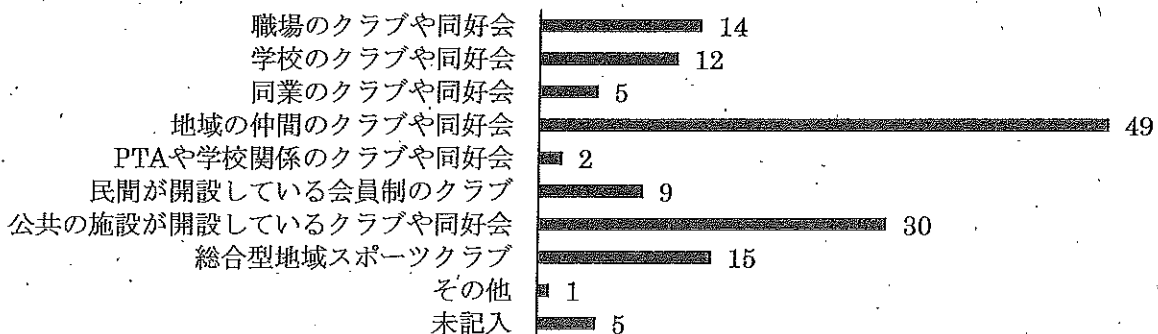
【問 29】{加入している方} 加入されている同好会やサークルは何ですか。



【問 30】{以前加入した方と現在加入していない方} 今後同好会やサークルに加入したいですか。



【問 31】{今後加入したい方} 加入したい同好会やサークルは何ですか。(複数回答)



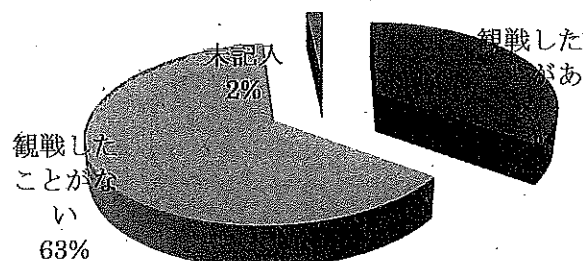
※スポーツクラブや同好会などについての市民の関心(問28～問31まで)

スポーツクラブや同好会の加入状況の傾向を見てみると「加入していない」が74%を占めている。そして、その人たちの78%は今後も「加入したくない」と回答している現状である。

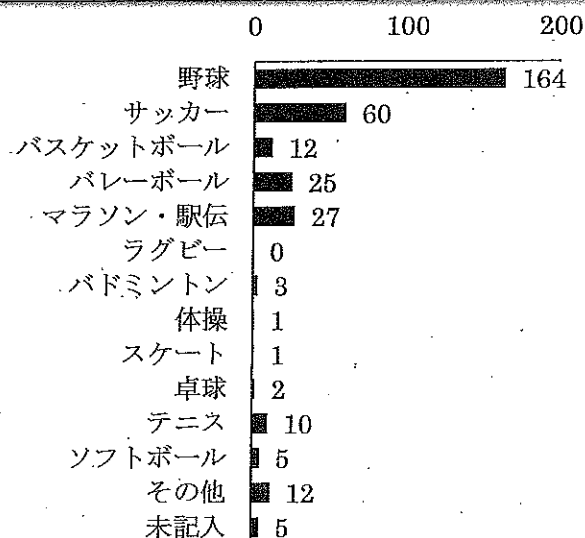
一方、同好会やクラブへの現在加入している人やこれから加入したいの関心の度合いを見てみると、どちらも「地域の仲間のクラブや同好会」が断トツで高い割合を示している。(加入している「地域の仲間のクラブや同好会」で63%、加入したい「地域の仲間のクラブや同好会」は39%)

これから、地域の中や既存の組織の中で、自分の居場所を求めていることが考えられ、取り組みやすいところから門戸を開いていけば、スポーツ振興の糸口がつかめるのではないかと推測される。

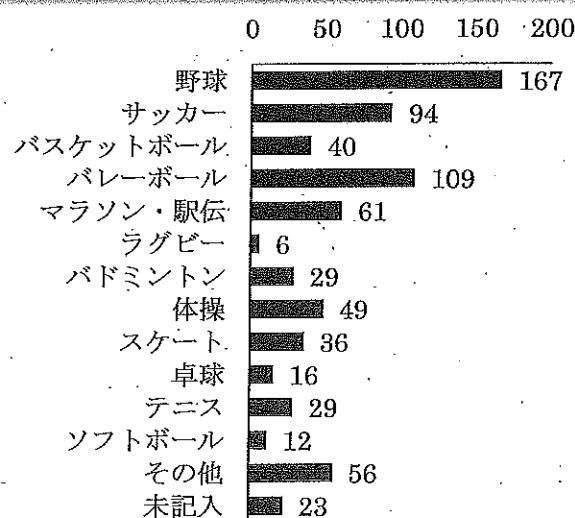
【問32】この一年間に競技場(角田市以外も可)などでプロスポーツや国際的・全国的スポーツイベントを観戦したことがありますか。



【問33】観戦したスポーツ種目は何ですか。(複数回答)



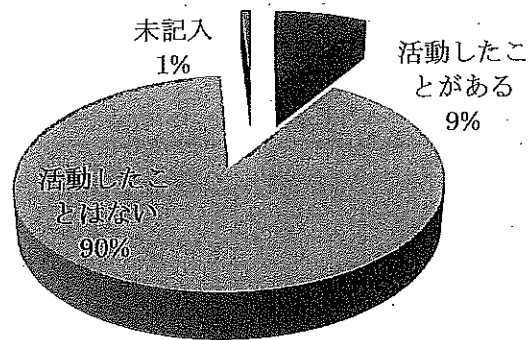
【問34】今後観戦したい種目は何か。(複数回答)



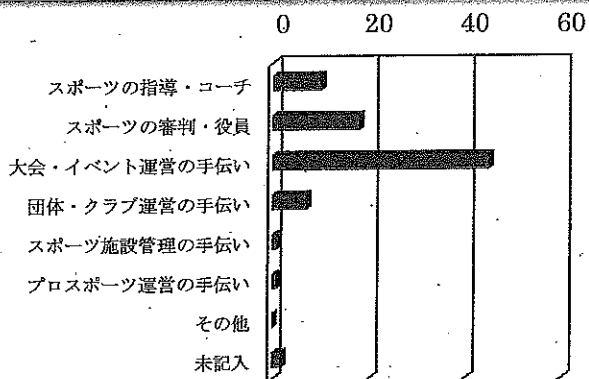
※スポーツ観戦についての市民の関心(問32～問34まで)

市民の中でレベルの高いスポーツを観戦したことがあると回答した人は、35%であり3人に1人は何らかのスポーツを観戦している状況である。観戦した種目の上位は①野球 50%、②サッカー18%③マラソン・駅伝8%、④バレーボール8%である。今後、観戦したい種目は①野球23%、②バレーボール15%、③サッカー13%、④マラソン・駅伝 8%となっている。県内にはプロのチームとして、野球、サッカー、バスケットボール、バレーボールがあり、高校には強豪校としての駅伝チーム等がある。身近なところで大会が開催されており、テレビ中継とも相まって、これらが大きな影響を及ぼしていると考えられる。これからのスポーツ振興には観戦機会の増加が大事な要素になり、本市の体育施設でのスポーツの観戦機会が増えることが求められている。

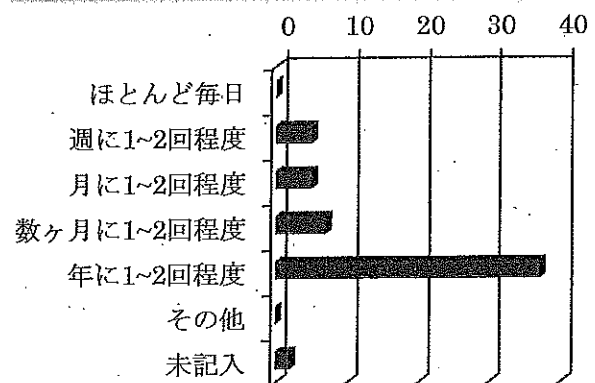
【問 35】この一年間に何らかのスポーツボランティア活動をしたことがありますか。



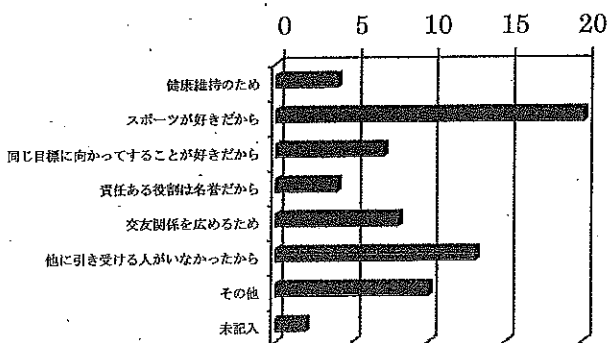
【問 36】【したことがある方】
何のボランティア活動ですか。(複数回答)



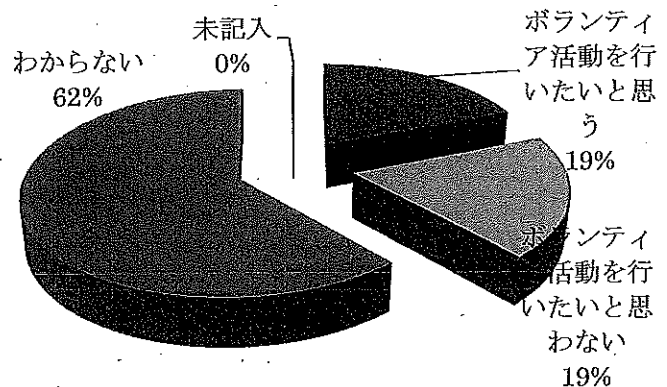
【問 37】【したことがある方】
どのくらいしましたか。



【問 38】【したことがある方】
どのような理由からですか。(複数回答)



【問 39】【したことのない方】
機会があればしたいですか。

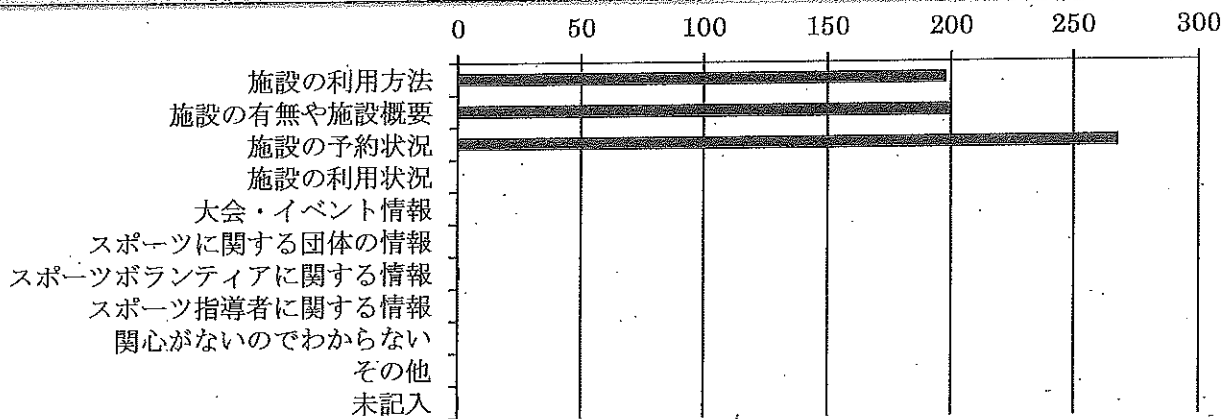


※スポーツボランティアについての市民の関心(問35～問39まで)

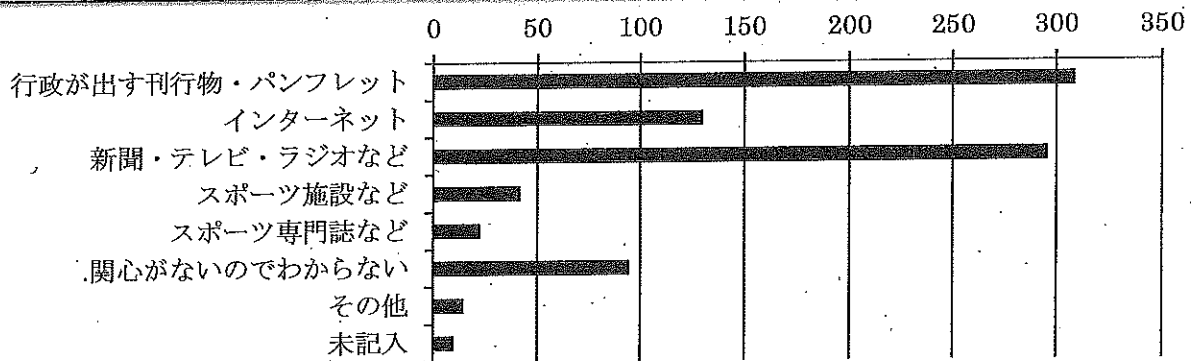
ボランティアの活動をしたことのない人の割合は 90%となっており、活動したことのある人は僅か 9%である。しかし、活動したことのない人のうち、今後機会があればしたいという人が5人に1人にあたる 20%近くいることも事実であり、支えるスポーツの柱となるボランティア活動についてこれからも働きかけが必要である。

活動経験の多い人は活動意欲も高い傾向にある。主な活動内容は①大会・イベントの運営協力、②審判活動、③スポーツの指導となっている。

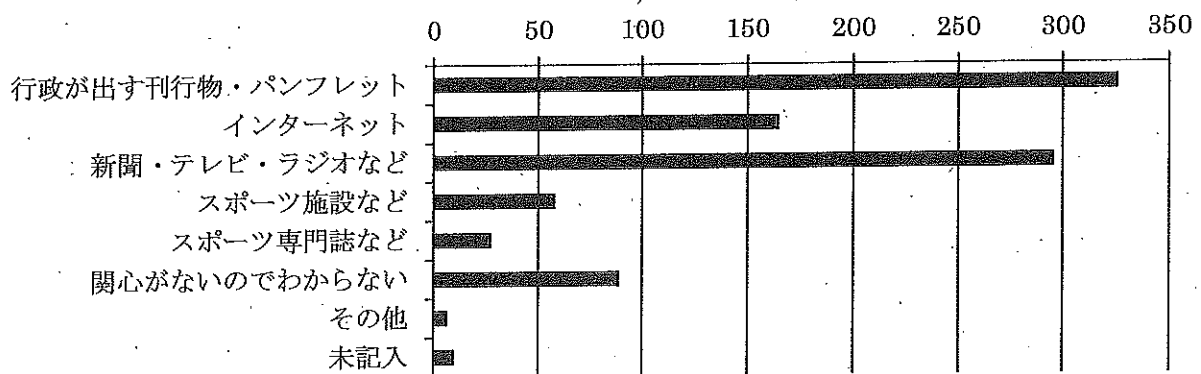
【問40】 スポーツに関する情報はどのような内容を知りたいですか。(複数回答)



【問41】 スポーツに関する情報はどこで得ていますか。(複数回答)



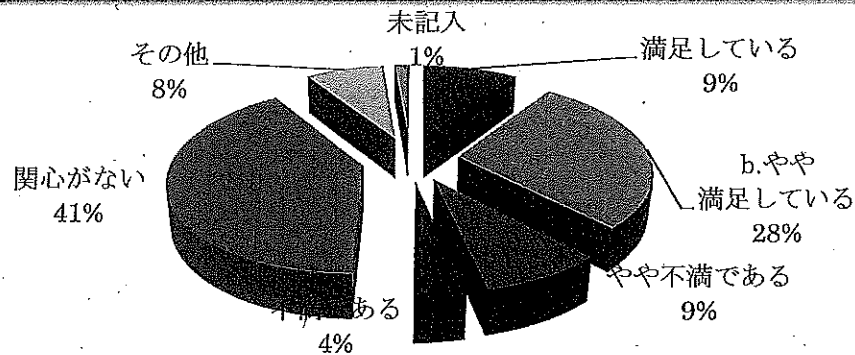
【問42】 今後、スポーツに関する情報はどのような方法で知りたいと思いますか。(複数回答)



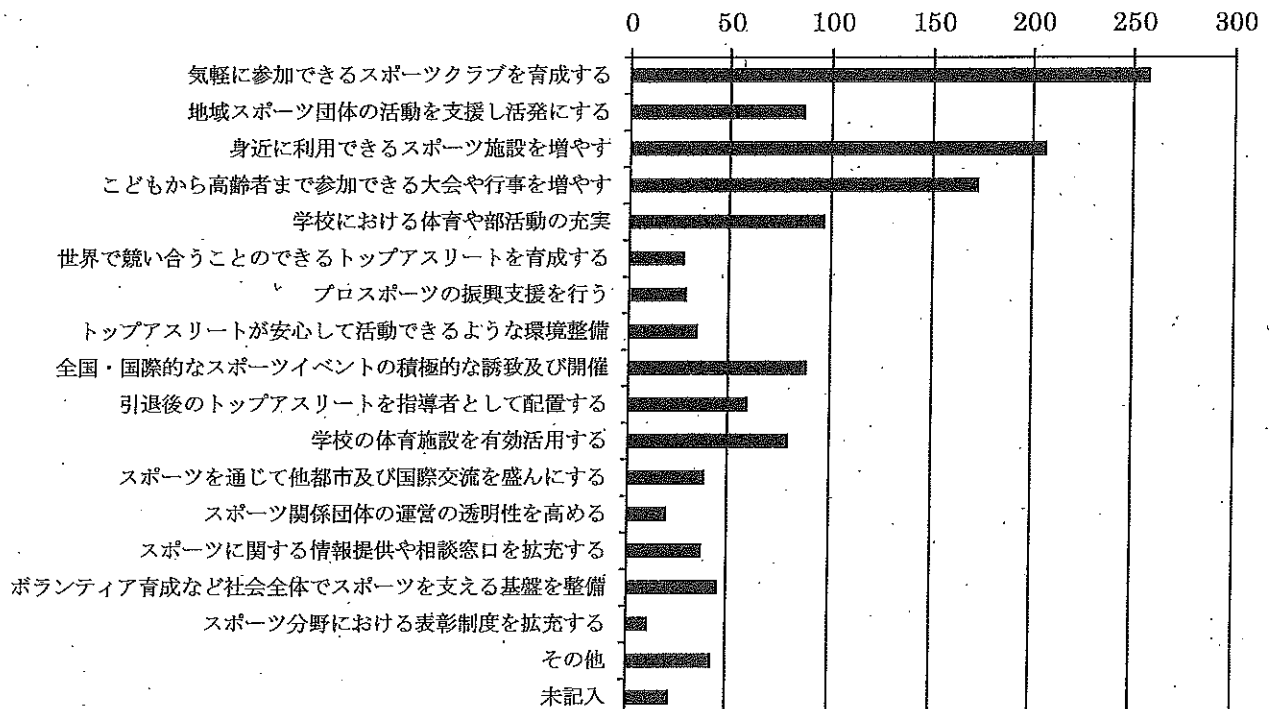
※スポーツに関する情報についての市民の関心(問40～問42まで)

市民が利用したいスポーツの情報は、①施設予約状況、②施設の有無や施設の概要、③施設の利用方法が上位であり、また、利用する情報媒体は①行政が出す刊行物・パンフレット、②新聞・テレビ・ラジオなど、③インターネットが上位となっている。特にインターネットの普及率は高く、今後の情報の提供はインターネットを考慮に入れたものになるように改善が必要である。

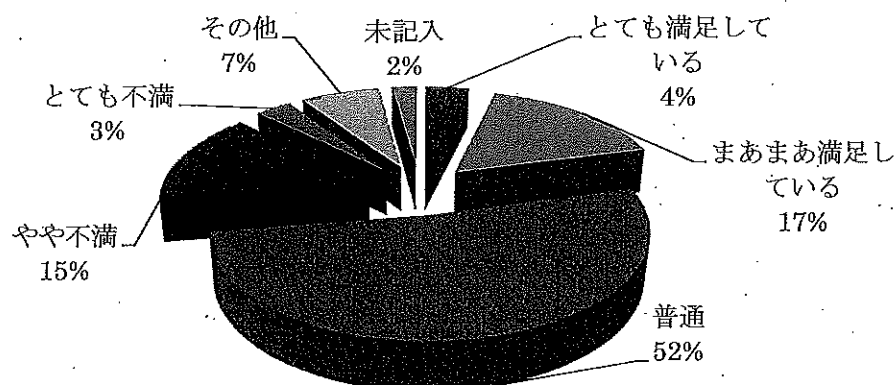
【問 43】これまでの「角田市のスポーツ振興事業」について、どう思っていますか。



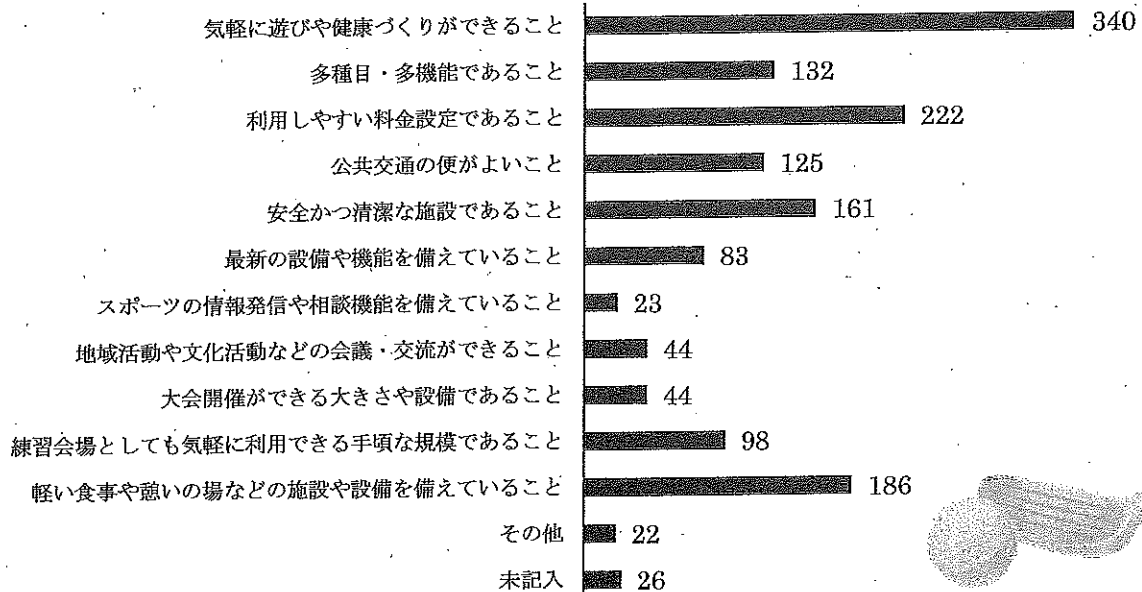
【問 44】角田市のスポーツ活動が盛んになるためには何が必要だと思いますか。(複数回答)



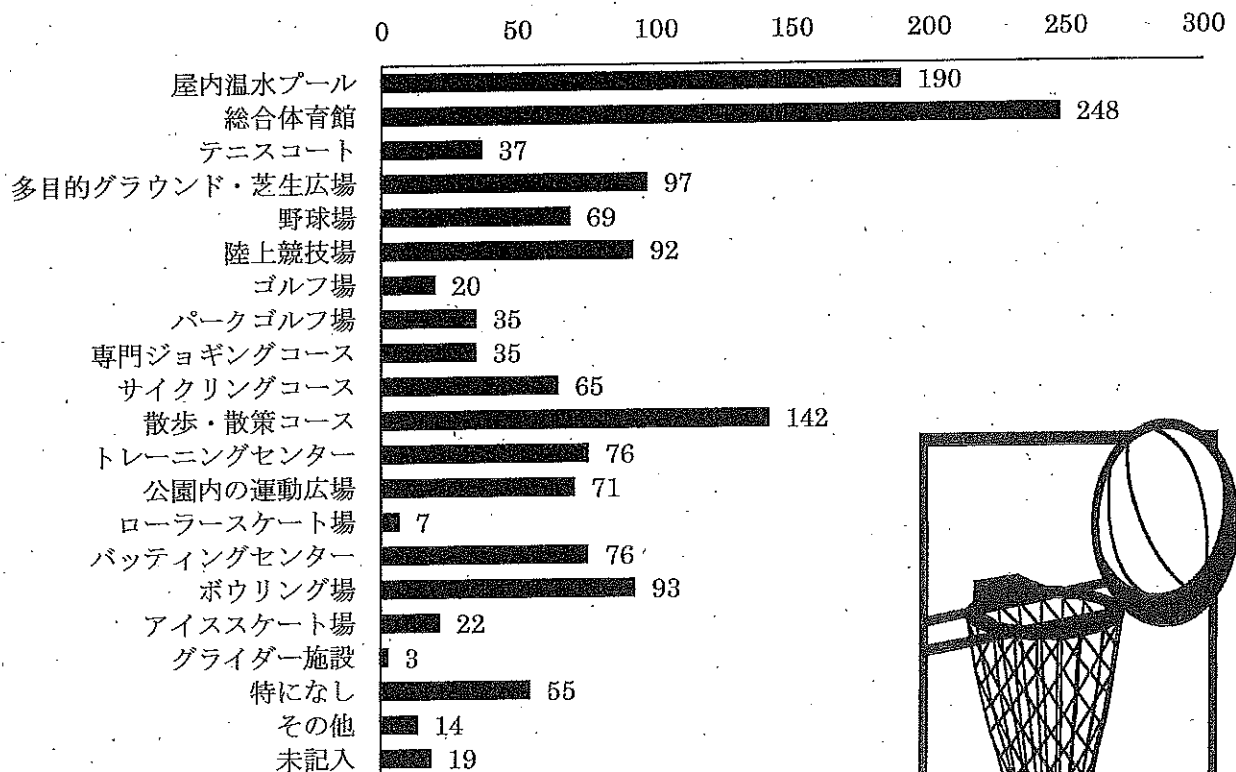
【問 45】角田市のスポーツ施設の数や設備について満足していますか。



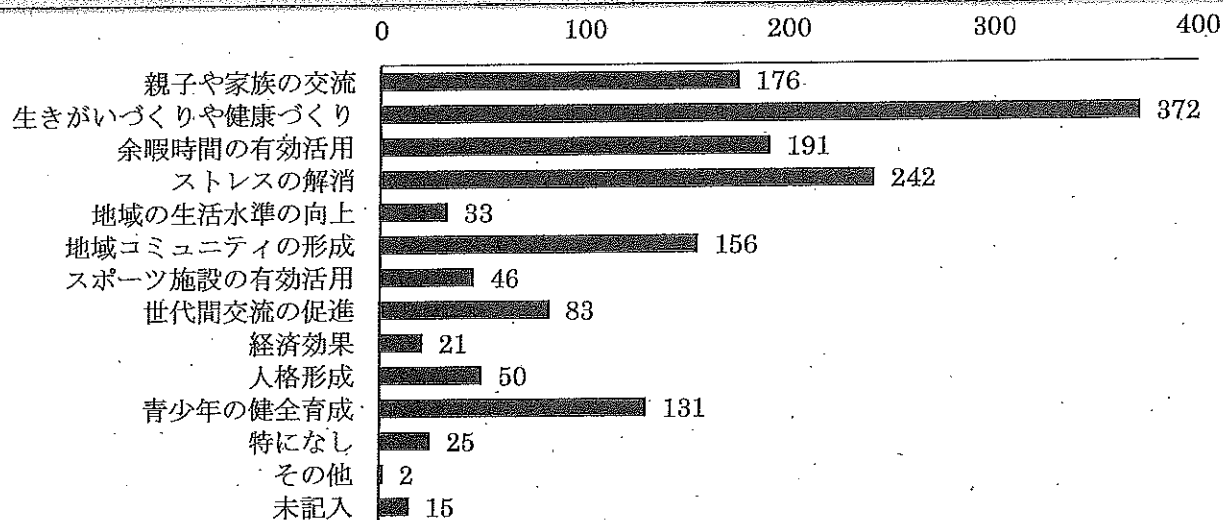
【問 46】 公共のスポーツ施設に求めることは何ですか。(複数回答)



【問 47】 現在あるものも含め、身近に必要と思うスポーツ施設はどのようなものですか。(複数回答)



【問48】社会生活の中で、運動やスポーツはどのような役割があると思いますか。(複数回答)



※今後のスポーツ振興施策についての市民の関心(問43～問48まで)

これまでの市のスポーツ振興事業について、「満足」と「やや満足」は合わせて 37%、「不満」「やや不満」は合わせて 13%であり、施策が浸透しつつあると捉えることができるが、残念なことに「関心がない」と回答した人の割合は 41%に上る。本市のスポーツ施設の数や設備についての満足度は「普通」も加えると 73%に上ることから、施策にはあまり関心はないが施設には多くの市民がほぼ満足している状態にあると推測できる。

身近に必要なと思う施設は、①総合体育館、②屋内プール、③散歩散策コースと続く。注目すべきことは、従来は競技志向型が大半を占めていたが、現在は志向の多様化傾向が見受けられる。例えば、娯楽志向型はボウリング場、バッティングセンター、アイススケート場などを挙げており、健康志向型は散歩散策コースのほかに、トレーニングセンター、サイクリングコースなどを挙げている。

市民が施設に求めることは「気軽に遊びや健康づくりができること」「利用しやすい料金設定であること」「軽い食事や憩いの場などの施設や設備を備えていること」であり、多くの方の要望として真摯に受け止め、状況を見極めながら施設の改善に努める必要がある。

スポーツ活動を盛んにするためには、①気軽に参加できるスポーツクラブを育成する、②身近に利用できるスポーツ施設を増やす、③子どもから高齢者まで誰もが参加できる大会や行事を開催する、が上位に挙げられており、行政の上手な舵取りが求められている。

スポーツは回答にも現れているように、「生きがいや健康づくり」「ストレスの解消」「余暇時間の有効活用」「親子や家族の交流」「地域コミュニティの形成」そして「青少年の健全育成」など目的・方法・手段によりいろいろな役割を果たすことができるものである。

スポーツを生活の一部に位置づけ、生涯にわたり実践していく生活習慣を身につけることが大切であることはいうまでもない。スポーツの本質である「楽しさ・面白さ」を追求しながら、健康志向や娯楽志向への高まりを生かし、これからのスポーツ振興につなげることが求められている。

【問X】角田市のスポーツ活動やスポーツ振興に関するご意見・ご要望について(自由記述)。

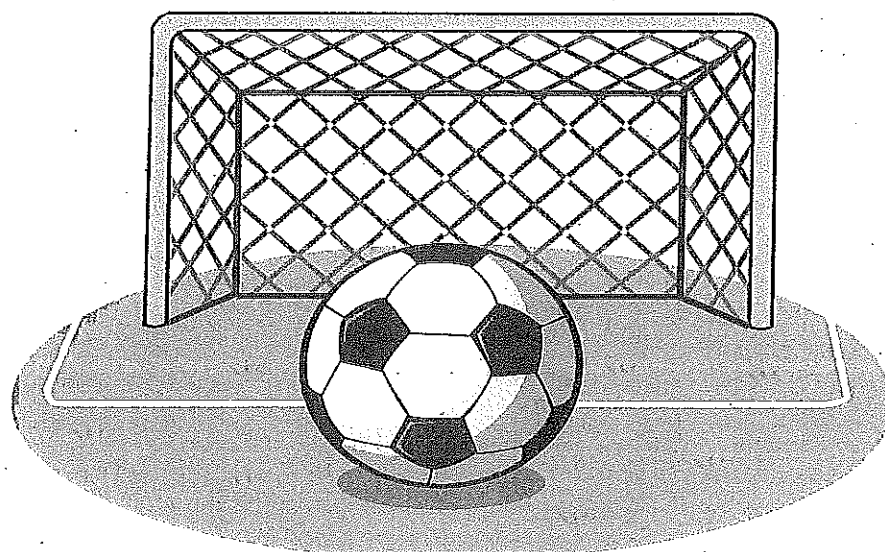
項 目		意 見 ・ 要 望
施策について	全 般	①スポーツ環境の充実は地域交流や健康づくりに大きな役割を果たしている。普及には娯楽性の高いスポーツ(ボウリング・バッティングセンター・ゴルフガーデン・スケート場・卓球場・ボルタリングなど)の整備が必要だと思う。 ②スポーツの施策が浸透していないと思う。スポーツ振興における職員の業務内容や携わる行事内容、そして、その達成状況などを公表するなどし、透明性を増すことが必要である。 ③経費をかけなくても指導ができるスポーツ環境の整備が必要である。例えば成人式に万歩計を贈呈するなどし、歩くことにより健康を心がけさせ、自己管理を促す習慣づくりを提案する。 ④小中高生や50代以上の年配者がスポーツをしている印象が強い。20代・30代が気楽に参加できるイベントの企画を希望する。また、それが出会いの場になるのではないかな。 ⑤仕事が忙しくなかなか運動をする機会がない。職場等の協力を得るなどして、日常生活の中で体操や運動ができるよう工夫や改善を促す施策が求められるのではないかな。 ⑥各自治センターや各地域、老人クラブ等の各団体のスポーツイベント等の開催状況や内容等を比較して、これからの施策に活用したらいいかな。 ⑦地区の年一回だけの大会のための練習では怪我のもとになるだけである。日ごろから継続した運動ができるように働きかけるとともに、行事や大会の運営方法を改善して欲しい。 ⑧地区の球技大会に半強制的に参加させられた。強制的ではなく気軽に参加できるスポーツ活動の推進を望むとともに、極端なスポーツ礼さんに走らないよう配慮して欲しい。 ⑨医療費負担軽減のためにも、ラジオ体操を市民健康のために普及させることが最良の策と考える。 ⑩既存の優れた体育施設をPRするとともに、ユニークな大会(腕相撲大会・力自慢大会・俵担ぎ・自転車乗り大会)を開催し、まちおこしに活用してはどうか。 ⑪自治センター主催のスポーツ大会の参加者が減少している。特に若い世代の参加者減少は顕著であり、運営の改善などの対策が必要ではないかな。 ⑫スポーツ振興を通じて健康的な生活の実現を期待する。誰もが健康を享受できるように、体育施設の利用料金が市内者でも市外者でも異ならないような配慮を願う。

項 目		意 見 ・ 要 望
施策について	高齢者	①高齢者が増加している現状から、高齢者が気軽にできるスポーツや運動プログラムの普及や年代別の運動プログラムの開発や提供を望む。 ②高齢者（50歳以上や定年退職者）に対応するサークルやスポーツ教室を公的機関で立ち上げ、参加しやすい体制作りをお願いしたい。 ③若い頃のようにスポーツを楽しみたいが年をとりすぎたと感じる。高齢者も楽しめるスポーツ観戦場所や機会が身近にあればよいと思う ④マスターズ大会の情報を流し、高齢者を奮起させる工夫が欲しい。
	指導者	①青少年のスポーツを正しく指導できる指導者の育成や研修会を望む。 ②各地区のスポーツ指導員をはじめ、スポーツが指導できる人の所在地と連絡や依頼場所を明確にし、指導を期待している人たちの要望を叶えてほしい。 ③スポーツのよさをみんなが体験できるように。特に子どもの指導は一生のものであり、スポーツに親しむ基礎を育む指導をして欲しい。
	情 報	①スポーツで活躍した人の情報をもっと市民に知らせて欲しい。一般にスポーツに関する情報の発信が不足しているのではないかな。 ②体育施設の利用状況や利用サービス体制などについて、宣伝媒体を活用するなど情報提供を充実させて欲しい。 ③スポーツのできる場所やその内容・連絡先などの情報を伝える時期や場所、方法等を工夫すれば更にスポーツ人口が増えると思う。 ④市内のスポーツ活動の状況を幅広く提供するために、また、体育施設の利便性の向上のために、スポーツや施設に関する情報などを、市のHPに専門サイトをつくって提供してほしい。
施設について	運 営	①トレーニング室の器具の使用法やトレーニングの仕方を指導する方の常駐を希望する。ボランティアの方やシルバーの方なども加えたトレーニング等の指導者の育成も併せて検討願いたい。 ②スポーツ施設の利用の際、幼児・児童たちの居場所が少ない。安心して親がスポーツできるように幼児・児童が遊べる施設や環境の整備をお願いしたい。 ③選手間の親睦を深めたり、競技力向上を図るために宿泊施設の充実をはかる必要がある。特に食事付の合宿所の整備を切に希望する。 ④体育館の予約状況など一目で分かるようにインターネットなどをもっと活用しサービスの向上を図るべきと思う。 ⑤体育施設の利便性の向上を望む。特に学校体育施設は学校行事との絡みで、一般人が希望通りに使えないときがあり改善策を期待する。 ⑥角田市の素晴らしい体育施設を市民誰もが活用するためには、市民が安価で利用できるように配慮することが必要である。

項目		意見・要望
施設について	利便性	①中央公園はスポーツ交流の拠点としての役割を果たしているが、交通便が悪く車のない人には不便である。せめて阿武隈急行角田駅からの交通便についての配慮が欲しい。 ②中央公園(体育施設)までのアクセスが悪く、また、自転車で行く人たちの交通安全対策も十分とはいえない。 ③中央公園の体育施設までの交通便がよくない。高齢者が安全で気軽に行ける交通の整備を望む。 ④総合体育館の近くに、コンビニやレストラン、道の駅などの食品販売を中心とした商業施設があれば便利である。遠くからの利用者や大会時において不便と言う声が多く聞こえる状況である。
	整備	①総合体育館はとても機能性があり充実した施設と感ずる。欲を言えばエアコン等の整備があれば、高齢者の利用も増えなお良いのでは。 ②市内では地域により格差があり、体育施設の数が少ないところがある。家事や仕事、両親の介護等でスポーツをする時間がないが、せめて身近に体育施設があれば気軽に取り組めると感じている。 ③スポーツ施設までの看板や案内表示が少ない。また大きなイベントに対応できる駐車場の整備が必要と感ずる。 ④本市の体育施設は児童や生徒には良い環境にあるが、社会人には利用しにくいところがある。軽運動が簡単にできる施設の増設やウォーキングが夜間でもできる安全面に配慮したコースの設置を要望する。 ⑤野球場について ・救急設備がない状況である。担架等の安全面についての設置を望む。 ・施設設備の老化が顕著であり、改修等の必要性を感じる。 ・ナイター設備を施し夜間使用も可能にし、利用率を高めて欲しい。 ⑥プールや競技場は準公認施設が多く全国レベルの大会ができない状況である。角田の特色を出すためにもこれだけはという施設を造り目玉にして欲しい。 ⑦高齢者が増加する現状から、生き生きとした高齢者の交流人口を増やすためにも、パークゴルフ場やグラウンドゴルフ場、ゲートボール場の増設と整備が必要である。 ⑧市民に活力を与えるようなプロの試合を誘致して欲しい。そのための施設設備の整備も必要であり検討すべきと思う。 ⑨各地域にウォーキングコースがあるらしいが浸透していない。自然と共生したウォーキング・トレッキング(山中歩行)コースを整備し、市が提唱する「五つのめ」と併せた健康づくりの柱として提唱したい。

項 目		意 見 ・ 要 望
施設について	整 備	⑩市民センターの体育館は、身近な体育施設として利用度が高かったが、解体されて残念である。同様の施設の早急な建設を望む。 ⑪中央公園内には体育施設が多いが、公会堂や音楽堂などの文化施設も併設して、総合的な体育・文化の交流拠点とすべきと思う。
その他		①本市のスポーツ施設は他の地域より早い段階で整備され、市民として感謝している。この整った施設をもっと有効活用して欲しい。 過半の女子のサッカーは予想以上の出来映えだった。これからもプロの試合の観戦機会を増やして欲しい。それが有効活用のひとつであると思う。 ②希望がある健康都市づくりを進めて欲しい。子どもから年寄りまで交流ができ楽しめるのは、スポーツ観戦が最適だと思う。今後は、市内でも一流のアスリートのスポーツの観戦ができるよう環境の整備に努めて欲しい。 ③エリアサービスは素晴らしいものがあるが、プログラムサービスやクラブサービスに努めて欲しい

※アンケートで回答いただいたご意見を掲載しました。但し、同種の意見が複数ある場合は、整理し、まとめました。



※クラブサービス；運動仲間の育成

※プログラムサービス；運動プログラムの提供

※エリアサービス；運動施設の提供



第2節 スポーツ関係団体意見調査結果及び分析

調査概要

(1) 調査目的

「角田市スポーツ推進計画」を策定するにあたり、各スポーツ団体におけるスポーツ界の現状と要望や意見を調査し参考資料にするため

(2) 調査対象

市体育協会・市内各競技団体・学校(小・中・高・支援学校)・市内PTA・自治センター
企業・医療機関・スポーツ推進委員ほか

(3) 調査期間

平成25年10月1日(火)～10月31日(木)

(4) 調査方法

予め調査対象団体に連絡し、下記の①及び②について選択して実施

①現場における聞き取り調査

- 1) 調整し指定された場所・時間内で聞き取り調査を実施
- 2) 下記の内容を吟味

②文書による意見聴取

- 1) 準備した文書による回答形式
- 2) 指定日までに記載し、返信用封書による提出

(5) 調査内容

○聞き取り調査項目

- ①所管するスポーツの界の現状と課題について
- ②市のスポーツ行政のあり方と要望について
- ③スポーツとまちづくり(スポーツ観戦・スポーツ観光・拠点づくり・経済効果)
- ④その他

○文書による意見聴取(聞き取り調査に準じる)

(6) 回答状況

	団体・機関名			合計
体加 育盟 協団 会体	体育協会	卓球協会	バレーボール協会	12
	水泳協会	柔道協会	剣道連盟	
	ソフトボール協会	バドミントン協会	ゲートボール協会	
	グランドゴルフ協会	ビニール・ボール協会	太極拳協会	
学校関係	保育所	小学校	中学校	5
	高等学校	支援学校		
関係機関	スポーツ少年団	スポーツコム・かくだ		5
	自治センター	角田医師会	商工会青年部	

調査結果

団体・機関名	本市のスポーツ行政に望むこと
体育協会	●加盟19団体の運営がスムーズに行えるよう体制を整えているが、財源の確保が重要課題であり、市の補助金で成り立っている現状である。今後も協会の育成と財政的な支援について継続支援を願う。
卓球協会	○いつでも気軽にできる卓球で健康づくりができるよう、休・廃校になった学校施設の有効活用を促進して欲しい。 ○参加者が多い大会でもスムーズに運営ができるように総合体育館内の備品の整備をお願いしたい。(卓球台4台追加・防球ネット修繕等)
バレーボール協会	●ソフトバレーの競技人口が増加している状況であり、今後ソフトバレーを中心に交流と普及に努めたいと考えている。用具が不足(2組しかない)しているので整備して欲しい。
水泳協会	○人口減少している中、子どもたちがスポーツに親しむ機会も減っている。土曜の午前中など、小学校の体育施設の開放に努め、子どもたちが運動する機会を増やすこと等に、学校や各スポーツ団体が鋭意取り組んで欲しい。
柔道協会	●武道で心技体を養うには中学校からの指導が大切である。学校をはじめ教育委員会には特段の配慮をお願いするとともに、学校の教員には武道を熟知した適切な人材を配置して欲しい。 ●市の武道館において柔道教室ができるように配慮して欲しい。
剣道連盟	○インターネットで施設の利用状況が分かるように至急改善が必要である。他市町村より遅れていると思う。また、各種施設利用の申請については、登録制度等を導入し、申請の簡略化を図るとともに、申請回数の撤廃(現在MAX4回までであり、計画が立てにくい)を提案する。
ソフトボール協会	●市内の球技大会では、野球場や多目的グラウンドそして台山公園グラウンド等で賄えるが、仙南の大会以上の規模の大会では施設が不足している。一箇所に2面確保できるような多目的グラウンドの追加整備を願いたい。
バドミントン協会	○市民センターの体育館は利用価値があったが、取り壊され苦慮している。できれば総合体育館内にサブ体育館の整備を願いたい。
ゲートボール協会	●ゲートボール場は雨が降るとぬかることがある。中央・台山ともにコート周辺に整備用の砂を配備して欲しい。併せて、協会が利用できる用具庫の設置をお願いしたい。
グラウンド・ゴルフ協会	○協会主催の大会については、運動広場の施設管理は良好であり恵まれた環境に感謝している。 ○高齢化社会の顕著な地域にあって、本競技を心身の健康づくりの核として発展させたい。本競技は角田地区スポーツ大会やスポレクに採用されているが、これからも継続して普及発展に力を貸して欲しい。

団体・機関名	本市のスポーツ行政に望むこと
スポーツ団体	ビニール・ボール協会 ○休・廃校になった学校施設の有効活用を促進するため、必要な施設の整備をお願いしたい。 ○インターネットでも施設の利用状況が分かるようにして欲しい。 ○手軽にできるスポーツであり、競技年齢層にも幅があり、人気がある。今後、世代別大会の開催を予定しているが、総合体育館の利用がままならない状況であり、検討して欲しい。
	太極拳協会 ●現在、角田自治センター二階と改善センター及び旧小田小体育館を利用しているが手狭である。また、他の市町村からの参加者も多数おり、練習場所の確保に苦慮している現状である。施設使用の利便性に努めて欲しい。
関係機関（市）	保育所 ○保育施設が手狭であり、特に雨天時にはのびのびと遊べるスペースがなく気軽に利用できる体育施設が欲しい。（近くに市の施設があると良い） ○保育所に預けている保護者は時間的な余裕がなく、したがって、子どももスポーツにふれあう機会が殆どない状況である。せめて、年長組が気軽に本物のスポーツ体験ができるように、仙台大学の学生や体育指導員の指導、スポコムかくだのチアリーダーとのふれあいなどが継続的にできるよう整備して欲しい。これからのスポーツ振興に繋がるような事業を整えて推進して欲しい。
	小学校 ●次世代の子どもたちのためにも、また、健康維持のための生活習慣の確立とスポーツの楽しさやその効果を伝えていくためにも、スポーツの積極的な推進と施設の適切な維持管理が必要である。 ●本市のスポーツ施設は県内外からの利用者も多い。施設利用の際に、食事・買い物、宿泊、休憩などが行える施設が付加価値として加われば市の収益も増え、施設の修理や改修の財源になると期待される。行政の横断的なつながりを充実させ、ぜひ実現させて欲しい。
	中学校 ○学校教育の中で、体育的行事や保健体育等の授業など、学校外の施設を利用しなければならないものに関して、優先的に使用できるように配慮して欲しい。
	高等学校 ●スポーツの活性化を図るため、小学校から一般までこの地域の特性を踏まえた上で、重点種目を決め講習会や講演会などを実施し、普及や強化を図ることが望ましい。また、姉妹都市や友好都市と交流事業を膨らませ交流試合などを実施する。このことにより、①姉妹・友好都市とのスポーツ交流による更なる促進 ②独創的な角田市らしさの競技の創造 ③外部への発信・情報提供による交流人口の増加等が期待できるのではないかな。
	支援学校 ○県の障害者スポーツ事務局が仙南にないことが影響していることもあるが、他のスポーツ同様に障害者スポーツ事業への取り組みと活性化を願う。 ○リバーサイドマラソンの参加費などの減免措置をお願いしたい。

団体・機関名	本市のスポーツ行政に望むこと
スポーツ少年団	○現有するスポーツ施設を有効活用する。特に、宿泊施設を整備し、市内外からの利用者(合宿・研修)の受け入れを推進して欲しい。 ○子どもの成長に役立つ環境づくりを推進して欲しい。本市の自然を生かし、ウォーキング・自然観察・バードウォッチングができる拠点づくり(旧小田小学校・改善センター等)に取り組んで欲しい。また、小田川に河川公園の整備を検討して欲しい(鮭が遡ってきている)
スポーツコミュニケーション・かくだ	●中央公園に集約されたスポーツ施設は、他市町村より格段に充実している。特にゴルフ場、パークゴルフ場、滑空場を含めた環境は角田特有の地域スポーツの財である。これらを有機的にかつ友好的に活用するため、従来の観念にとらわれない新しい取り組みを期待する。 ●スポーツの多様化に対応するため、速やかな人材の確保が必要である。地域の中でスポーツ分野において活躍した人や、大学や教育行政で研修を受けた人等を中心に、<u>スポーツマスター制度(※)</u>を構築し、更には地域で人材を育成するなど、地域住民の積極的な活用が必要である。
自治センター	○手軽にできるレクリエーションや健康づくり運動を普及・伝授させるための講習会等の開催や指導者の育成に努めて欲しい。 ○スポーツ関連施設が集中している中央公園周辺に「道の駅」などを整備し、交流の場の更なる推進を図って欲しい。 ○豊かな人生を送るためには、基盤となる児童生徒の時期にスポーツに親しむ習慣が肝要であり、本市独自の指針を策定し、具体的な目標値を定めて推進して欲しい。
角田市医師会	●競技大会における障害、事故に対する対応は原則自己責任であることを周知徹底させること。医務員がいたとしても、その場でやれることは限られているので、大きな大会においては、後方支援医療機関の確保が必要であるので、適切な対応を望む。 ●指導者の質的な向上を図ること。指導者は競技スポーツやレクリエーションスポーツ等、それぞれの特性や意義・内容を踏まえ、過度な競争意識が障害・事故に繋がることをスポーツ実施者に理解させて取組ませること。
角田市商工会 青年部	○特にスポーツに関してなし。

※スポーツマスター制度について

スポーツ分野で活躍した著名な方に、その功績と栄誉を称える称号を贈ると共に、講演会や実技指導の講師を務めるなど、青少年に夢を与えて市民のスポーツの普及振興に役立てることを目的とする制度。

平成7年に全国の自治体に先駆けて、苫小牧市がはじめて施行に踏み切った。

団体・機関名	本市のスポーツとまちづくり
体育協会	○本市のスポーツ振興の拠点である角田中央公園を有効活用することで、交流人口の拡大を図り、地域の活性化につなげることが重要である。協会としてスポーツの普及発展・振興に寄与したい。
卓球協会	●少子高齢化が進む中、スポーツを通して健康な長寿社会の実現を目指していく施策が必要である。小学生を対象に卓球人口の増加に努めたい。 ●市民の競技力向上を図るとともに、卓球を通して地域の交流・親睦を深めていく。また、スポーツフェスティバルやリバーサイドマラソン等に枠を超えた積極的な支援をするなど、スポーツ全般の普及振興に努めたい。
バレーボール協会	○スポーツ交流人口100万人、スポーツ立市を目指すのであれば、第二体育館（学校の体育館と同程度の設備）の整備が必要であり、それにより更に大きな大会の誘致が可能になる。
水泳協会	●中央公園内にスポーツする若者が集い、たむろする施設の整備が望まれる。第二図書館等、学習や文化施設を併設することが必要である。 ●角田市＝スポーツの町と関連付けてしまうような、メジャーなスポーツ（女子サッカー・マラソン等）に力を入れて支援・応援して欲しい
柔道協会	○基礎となる小中学校の時期にスポーツに取り組む習慣の育成が大切である。学校教育での適切な指導を期待する。柔道においては少子高齢化も要因のひとつと思われるが、競技人口の減少に歯止めがかからない。伝統ある県立高校に柔道部がなくなったことは驚きであり、県の取り組みにも一考を要す問題である。
剣道連盟	●スポーツ推進委員の活動の活性化を図る。行政のお手伝いではないので、事業の計画・立案・実施に大きく関わる必要がある。 ●公認スポーツ指導者の育成と発掘が急務である。 ●市民皆スポーツを目指し、「いつでも、どこでも、誰でも、いつまでも」の標語と「する、みる、ささえる、ひろげる」標語を基本に進めて欲しい。
ソフトボール協会	・「本市のスポーツ行政に望むこと」に同じ
バドミントン協会	●交通公園のような高齢者と子どもたちが一緒に遊べる屋内施設が必要である。
ゲートボール協会	○当協会は70歳以上の高齢者ばかりであるが、まちの活性化に寄与したい。これからも当協会に対するご支援を宜しく願う。
グラウンドゴルフ協会	●本市は試合会場や施設に恵まれており、県大会や各ブロック大会の会場になっている。地域のスポーツ振興とともに本市全域の活性化に今後も寄与したい。 ●高齢化社会の顕著な地域にあって、心身の健康づくりの核となって発展させていきたいと考えている。地域の大会や市民大会の種目として今後も継続して採用してもらいたい。

団体・機関名		本市のスポーツとまちづくり
スポーツ団体	ビニール・ボール協会	○体育施設が整っている中央公園は、交流の場としての機能を最大限に生かすことが必要であり、大きな大会の誘致や競技団体への支援、そして、スポーツ合宿等の実施などを積極的に推進して欲しい。また、それには観光や物産との連携が必要であり、更には中央公園周辺に観客が集う商業施設の開発が必要である。
	太極拳協会	●みんなのスポーツ教室をはじめとし、子どもの発育にも好ましく、いろいろなスポーツに挑戦できる環境づくりにこれからも努めて欲しい。
関係機関①	保育所	○気軽に親子で体力づくりやスポーツ体験ができる環境の整備に努めて欲しい。できれば、定期的にスポーツ体験ができるように保育所への訪問や指導があれば子どもたちの将来のスポーツ習慣に繋がるものと思う
	小学校	●「本市のスポーツ行政に望むこと」に同じ
	中学校	○これからもまちのスポーツ行事に積極的に参加し（競技者・ボランティア・応援等）、地域とのつながりを深めて地域の一員としての自覚を促す。
	高等学校	●「本市のスポーツ行政に望むこと」に同じ
	支援学校	○屋内温水プールや陸上競技場を利用させていただいている。また、リバーサイドマラソン等での伴走を認めてもらい感謝している。これからも、障害者スポーツに対する支援をお願いしたい。
スポーツ団体・関係機関	スポーツ少年団	●「本市のスポーツ行政に望むこと」に同じ
	スポーツコミュニケーション・かくだ	○スポーツを文化活動の一環として位置づけて取り組む必要がある。 ○多様な分野と関連できるスポーツの特性を生かし、従来から行われている食・観光・教育などのイベントとの一元化を図ること。行政・各文化・スポーツ団体からの協力を得て組織を構成し、複数のイベントを連携させ相乗効果を得ることが必要ではないのか。
	自治センター	●少子高齢化が進む中、ウエルパークとの連携を深め健康な長寿社会の実現を目指し、健康に関する組織の連携や改変を期待する。 ●健康ポイント対象事業等との連携を図り、身近でできる健康づくりを推進していく。（地区振興協議会が開催するウォーキング大会など）
	角田市医師会	○高齢化社会におけるスポーツの意味するところ、スポーツを実践して適度に体を動かすことがひいては疾病の予防に繋がるということを、広報誌などを利用してのアピール(訴え)を継続する。
	角田市商工会青年部	●特に掲載することなし

団体・機関 の 課題・その他	
施設	●バレーボールの用具はかなり長期間使用したので危険な状態になっている。 ●総合体育館内の放送設備について。ステージで放送する音が1・2階ロビーや玄関前の外にも流れるようになれば、運営がスムーズになると思う。 ●総合体育館の照明について。センター方向と壁側方向の照明度が異なっている。センター側が暗いので等しく照明が行き届くように整備を願う。 ●総合体育館の中庭の利用価値は低いと思う。会議室またはロビーにして利用価値を高めることを検討してはどうか。 ●総合体育館の暖房はなかなか温まりにくい。また、申し込んでも入らない場合がある。要検証。 ●総合体育館にサブ体育館があれば利用価値が更に高まる。
課題・その他	○ソフトバレーとビニール・ボールを一緒にした競技を考案したい。(バレー) ○会員の高齢化と大会参加者の激減。(水泳・柔道・ソフトボール) ○剣道連盟と剣道協会の組織が一本化され「角田市剣道連盟」となる。(剣道) ○オープン大会を開催すると小学生や中学生が非常に多く参加してきている。(バドミントン) ○児童の体力が低下傾向にあり、歯止めをかけるべくいろいろな取り組みを行っている。学校で行ったスポーツ教材が楽しかったことから、生涯スポーツに発展したという生徒が一人でも多くなることに配慮している。(小学校) ○地区中体連で所管する学校数は、生徒の減少により4校である。今後、仙南地区中体連の再編も視野に入れていかなければならない。(中学校) ○部員不足(定員割れによる生徒数の減)及び指導者不足(種目により指導できない、外部コーチもいない)、練習施設不足(施設なしまたは手狭)の状況である。(高校) ○社会スポーツの体育協会やスポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブは県内でも優れていると感じている。障害者のスポーツにももっと支援策を施して欲しいと思う。(支援学校) ○ここ数年間、団数及び指導者数は変化なしだが、団員数の著しい減少が見られる。スポーツ離れに表れた現象を真剣に捉え、種目を超え指導者・親・子どもたちに関わるすべての人が真剣に考えるときである。(スポ少) ○設立当初より、教育委員会・体育協会の協力を得て組織の運営に当たっているが、未だに事務所の所在、専従の事務担当者、各教室での指導者、など不十分である。また、主たる財源は会員収入であるが、「t o t o」の助成金に依存しており、組織の自立と自主財源による運営は大きな課題である。(スポコムかくだ) ○日常の活動による障害を防止するため、指導者のほかにも、一般競技者のスポーツ医学や科学講習会への参加を勧めていくことが大切である。(自治センター) ○大会での医務員の確保は困難なことが多く、各競技団体が自主的に障害や事故に備えた対応策を検討すべきである。(医師会)



審議経過

内容

年 月 日	経 過	備 考
平成25年 3月 1日～ 平成25年 4月30日	スポーツ推進計画の検討	
平成25年 5月 1日～ 平成25年 5月31日	基本方針策定 スポーツに関するアンケートの素案作成	
平成25年 6月 1日～ 平成25年 6月30日	審議委員選出・関係部署との協議	審議委員の内諾
平成25年 7月30日	第1回角田市スポーツ推進審議会	計画の基本方針 諮問
平成25年 8月 1日～ 平成25年 8月30日	市民の意識調査（アンケート）の内容検討 関係団体・機関の意見調査の内容検討	素案検討
平成25年 9月15日～ 平成25年10月15日	スポーツに関する市民の意識調査(アンケート)実施	回答 611/1000人 回収率 61.1%
平成25年10月 1日～ 平成25年10月31日	スポーツに関する関係団体・機関の意見調査実施	回答 22/29 団体・機関 回収率 75.9%
平成25年11月 1日～ 平成25年11月30日	スポーツ推進計画の骨子・素案の検討	
平成25年12月26日	第2回角田市スポーツ推進審議会	計画の骨子・素案 諮問
平成26年 1月28日	第3回角田市スポーツ推進審議会	計画案 全体の審議・ 答申中間案 諮問
平成26年 2月13日	角田市議会全員協議会	計画案の審議
平成26年 2月17日～ 平成26年 2月28日	パブリックコメント実施	意見提出者 人 意見・提言数 件
平成26年 3月 1日～ 平成26年 3月 7日	パブリックコメントまとめ 関係部署・関係者の意見のまとめ	計画に反映
平成26年 3月11日	第4回角田市スポーツ推進審議会	パブリックコメント審議 答申最終案 審議
平成26年 3月20日	教育委員会にて（案）審議	



角田市スポーツ推進審議会委員名簿(H25)

No.	所 属	氏 名	備 考	
1	仙台大学講師	吉 井 秀 邦	学識経験者	
2	元車イスバスケットボール日本代表監督	岩 佐 義 明	学識経験者	
3	東北学院大学非常勤講師	遠 藤 良 則	学識経験者	
4	角田市体育協会長	石 黒 勝 昌	スポーツ関係団体	会長
5	スポーツコミュニケーション・かくだ会長	草 間 進	スポーツ関係団体	
6	角田市スポーツ少年団本部長	佐 藤 好 孝	スポーツ関係団体	
7	角田市社会福祉協議会事務局長	太 田 文 夫	関係行政機関	
8	北郷小学校長	大 槻 政 雄	関係行政機関	副会長
9	北角田中学校長	高 橋 正 則	関係行政機関	
10	角田保育所長	菅 野 博 子	関係行政機関	

事務局

No.	所 属	氏 名	備 考
1	教育委員会教育長	菊 地 俊 彦	
2	生涯学習課課長	笠 松 直 人	
3	同課課長補佐	齋 藤 修	
4	同課スポーツ振興係長	戸 村 命	
5	同課同係主事	大 沼 湧 輝	
6	同課同係スポーツ指導員	菊 地 恵 一	



計画見直し(案)に関するパブリックコメント

角田市スポーツ推進計画の見直し(案)に関する意見募集 (パブリックコメント)の実施について

角田市教育委員会では、角田市のスポーツ推進に関わる総合的かつ長期的な視点による行政活動を体系化した角田市スポーツ推進計画(平成26年3月策定)を、社会情勢の変化と計画の進捗状況を反映するために見直すにあたり、次のとおり市民の皆様から意見を募集します。

- 1 計画の名称
角田市スポーツ推進計画の見直し(案)
- 2 関係資料等の公表方法
 - ・市ホームページへの掲載
 - ・角田市教育委員会生涯学習課(角田市市民センター内)での閲覧
- 3 意見の提出期間
 - ・平成31年1月25日(金)から平成31年2月25日(月)(必着)
- 4 意見の提出方法
 - ・別紙の様式を用い、次のいずれかにより提出してください。
 - ・書面による提出(市民センター又は総合体育館へ)
 - ・下記8へ郵送、ファクシミリ又は電子メール
- 5 意見提出の際の留意事項
 - ・いずれの方法による意見提出の場合も、住所、氏名を明記して下さい。
(住所、氏名を明記していない場合は、意見提出として扱わない場合もあります。)
- 6 提出された意見の公表
 - ・提出いただいたご意見については、市の考え方を付して、内容を公表します。その際、住所、氏名は公表しません。
 - ・同種の意見が複数ある場合は、整理し、まとめて公表することがあります。
 - ・案に対する賛成、反対のみの意見については、そのような意見があったことは、公表しますが、あらためて市の考え方を示すことはしません。
- 7 意見等を提出できる方
 - ・市内に住所を有する方
 - ・市内に事業所又は事業所を有する個人及び法人その他団体
 - ・市内に通勤又は通学する方
 - ・本市に対して納税義務を有する方
 - ・見直ししようとする計画により直接的な利害関係を有すると認められる方
- 8 意見の提出先
角田市教育委員会生涯学習課
 - ・住所 981-1505 角田市角田字牛館10
 - ・電話 0224-63-2221
 - ・FAX 0224-63-5633
 - ・電子メール gym@city.kakuda.lg.jp

角田市スポーツ推進計画の見直し（案）に関する意見募集 （パブリックコメント）の実施結果について

角田市スポーツ推進計画の見直し（案）の策定にあたり、市民の皆様から意見を募集したところ、7名（団体含む）・24件のご意見をいただきました。

提出されたご意見とそれに対する角田市の考え方は下記のとおりです。

貴重なご意見、ありがとうございました。

1 意見募集期間

平成31年1月25日（金）から2月25日（月）まで

2 提出方法別の提出人数及び意見数

提出方法	提出人数 (団体含む)	意見の件数
直接持参	5	21
電子メール	1	2
FAX	1	1
郵便	0	0
合 計	7	24

3 意見の詳細及び市の考え方

次頁以降をご覧ください。

角田市スポーツ推進計画の見直し（案）に関する意見募集（パブリックコメント）に提出されたご意見と市の考えについて

項目等	頁	No	要望・意見等	市の考え方
第3章 基本理念 「スポーツ・イン・ライフ」を目指し・・・など	25	1	スポーツをするのは身体にとってよいこととしようのはみんながわかっていることであるが、それを意識的に行うことは難しいものである。若者男女みんなが楽しめるようなものをできれば一番よいと思う。 少子高齢化が進んでいく現在、高齢者は特にフレイル（身体機能の低下）、サルコペニア（骨格筋力の低下）、ロコモティブシンドローム（筋力低下等）による運動機能不全）等が大きな問題となる。 日常の中でスポーツ的な活動のようなものをいくつが取り上げてみる。 1 浴槽の中のスポーツ お風呂の中で、水をバベルのように持ち上げる運動、足をバタバタさせる運動等の簡単な運動を行う。 あまり激しい動きをすると身体への負担が大きくなり、心臓疾患や脳疾患等を起こす可能性があるもので、できればスローモーションの動きをイメージするような無理のない動きで行うとよい。 また、家の中では弱腰であれば、角田温水プール等で、大きな運動をすればよい。 私は同プールで時々水中ウォーキングを行っている。 また簡単なものとして足湯もよいかもしれない。ただ単に足をバタバタさせるか、じっとつかるだけで良い。 2 昔取った杓柄でスポーツ 昔スポーツをやっていた人であれば、その同好会組織や学校での施設を借りるシステムであればよい。 また、指導能力があるようであれば、小中学校の監督代理等をしてみるとよい。 これらの一般的なスポーツでなくとも、けん玉やお手玉等の同好会組織、または老人施設等でけん玉大会等を定期的に開催してもよい。 3 カラオケでスポーツ 老人の一人世帯等では、孤独で一日中何も会話がないうという世帯もあるかもしれない。 カラオケの施設で、カラオケを楽しむ同好会組織を立ち上げるとよい。 その時には口の運動という意味では、「あいうべ」体操等口を大きく大きく動かす運動を行って、口の周囲の筋肉を鍛えると同時に、脳に刺激を与えて、ボケ防止を図るとよい。	スポーツ庁は、「スポーツ実施率向上のための行動計画（H30.8策定）」において目指すべき姿として、「スポーツ・イン・ライフ」（生活の中にスポーツを）を示しております。 今回、角田市においても、その趣旨を基本理念において反映しているものです。 ＜今後について＞ 具体的な事業の取組みについては、後期アクションプラン等で整理することとしております。その際に、いただいたご意見を参考にさせていただきます。
第3章 4 成果指標	27	2	数値目標の見直し（案）については人口減、少子化の影響を踏まえ、妥当な数値と判断される	成果指標における目標数値は、急激な少子化を踏まえ、子どものスポーツ振興に係る目標数値を一部下方修正したものです。 ＜今後について＞ 目標数値について、達成できるような計画の推進に取り組んでいきます。
		3	市内においては、人口減、少子高齢化、子どものスポーツ離れ等が進むなか、社会情勢の変化に対応した数値目標の見直しは必要と考えます。	
		4	スポーツ少年団でも今後、登録団員の減少が懸念されている。そのため、団員数増加ではなく登録加入率を上げていく努力をしていきたい。	＜今後について＞ 目標数値の進捗管理におきまして、団員数の増減だけでなく、子どもの数に対する登録加入率の数値も使い、適正な状況把握に努めていきます。ご協力よろしく願います。

角田市スポーツ推進計画の見直し（案）に関する意見募集（パブリックコメント）に提出されたご意見と市の考えについて

項目等	頁	No	要望・意見等	市の考え方
第5章 4 後期アクションプラン の概要 (3) みんなで取り組む 風土醸成プロジェクト (3つの土台) 1 スポーツの新たな定 義・価値の浸透 2 今までの枠組みを超 えた積極的な連携	47	5	国が示すスポーツの新たな定義、価値の浸透を図り、市民・地域を巻き込んで、枠組みを越えた連携を更に進めるため、企業を巻き込んで浸透のスピードに加速上げていかないと、急激な少子化に対する高齢化社会への問題解決できないと思います。	本計画施策6③において「各企業と連携し、スポーツ情報の提供やサ ークル育成等の促進を図る」としており、今回の計画の見直しにおいて、 さらなる積極的な連携が必要としております。 ＜今後について＞ ご意見いただいた「企業を巻き込んだ（企業との連携）」について、具 体的な内容について、後期アクションプランにおいて検討いたします。 今回の計画見直しにおいて「3つの土台」において「今までのスポ ーツの枠組みを超えた積極的な連携」を掲げ、「3つの柱」において「スポ ーツ推進体制の強化（連絡調整機能の強化）を掲げております。 ＜今後について＞ 国が示す「新たな定義・価値」を踏まえたスポーツを推進していくた めには、スポーツの範囲が大幅に広がっておりますので、関係機関の連 絡調整役、コーディネート役を担う組織が必要だと考えております。 この具体的なあり方については、後期アクションプランにおいて検討 いたします。
		6	市内のスポーツ団体が横の連携を強め、情報共有を図りながら、市民の健康増進など、スポーツ推進計画に基づいたアクションプランを遂行していくべき。 スポーツの「新たな価値」を高めるためには、市のスポーツ推進の核となるべきセクションとして、スポーツコミッションのような組織づくりを進めていくことが重要。	今回の計画見直しにおいて、第4章「ライフスタイルに合ったスポー ツ活動の推進」の冒頭に「子ども、成人、高齢者、障害者のスポーツ振 興それぞれの施策を連携させた横断的な取り組みの必要性」を追加して おります。 ＜今後について＞ ご意見いただいたとおり、各団体が連携しやすくなるためにも「幼児 から高齢者まで楽しく一緒に運動する機会・場づくり」について、後期 アクションプランにおいて検討いたします。 ご協力よろしくお願いたします。
		7	各種団体が情報交換や交流をする場が必要である。今後、市内スポーツ団体が連携を取ることが非常に大事であ る。そのためにも、幼児から高齢者まで楽しく運動をする機会を継続できる環境づくりが必要ではないか。	今回の計画見直しにおいて、第4章「ライフスタイルに合ったスポー ツ活動の推進」の冒頭に「子ども、成人、高齢者、障害者のスポーツ振 興それぞれの施策を連携させた横断的な取り組みの必要性」を追加して おります。 ＜今後について＞ ご意見いただいたとおり、各団体が連携しやすくなるためにも「幼児 から高齢者まで楽しく一緒に運動する機会・場づくり」について、後期 アクションプランにおいて検討いたします。 ご協力よろしくお願いたします。
		8	今後とも、市内のスポーツ団体との横の連携を図り、お互いに情報を共有しながらアクションプランの推進に努 力していきたいと考えています	今回の計画見直しにおいて、第4章「ライフスタイルに合ったスポー ツ活動の推進」の冒頭に「子ども、成人、高齢者、障害者のスポーツ振 興それぞれの施策を連携させた横断的な取り組みの必要性」を追加して おります。 ＜今後について＞ ご意見いただいたとおり、各団体が連携しやすくなるためにも「幼児 から高齢者まで楽しく一緒に運動する機会・場づくり」について、後期 アクションプランにおいて検討いたします。 ご協力よろしくお願いたします。
		9	今までのスポーツの枠組みを超えた連携として防災運動会を提案する。 現在各地の防災訓練等を行っている団体から、どんな参加者が減っているという話をよく聞く。東日本大震災の 記憶が薄れてきて参加する意欲がなくなるようである。また、参加者は地域の高齢者主体の参加が少くないという これらを解決するには、楽しみながら防災の知識を得ることを工夫した方がよいと思う。運動会は普通の市民でも 気軽に参加できるし、その中で防災に関する知識を得られるのであれば、積極的に参加してもらえらると思う。また 今の防災訓練のように老人や女性だけの訓練でなく、若者男女問わずに参加して、将来防災に関する職業に就きた いと思う若い人も増えるのではないかと考える。私は防災訓練として年に1回程度の防災運動会を提案する。参加者 は市民、行政、学校関係者、賛同企業、消防、警察、医療機関等である。運動会の場所としては陸上競技場等の広 い場所がよい。運動会種目として普通の100m競争等は行う。障害物競争は跳び箱越え、綱ぐり等を行う。 担架競争は4人でダミーを運ぶ。車椅子の人を押す競争をし、目隠し競争は地下街で煙にまかれたという想定であ る。AED競争はAEDを遠くから持ってきて指定の場所までダミーへの胸骨圧迫とAEDの実施を行う。消防隊員が見本 を見せてから参加者が行う。非常用持ち出し袋を想定して、リュック競争を行う。おんぶ競争は子ども、老人をお ぶって避難所まで逃げようとする。勝った人に防災名入とする。ダンスと違えばストリートダンス運動会も 者全員で行う。エコーミクスダンス症候群防止のためである。こうした取り組みを行うことで住民に楽しみながら防 災の知識を得てもらいたい。これらをもっと魅力あるものにしたいたいと思えば、ドローンを利用した調査競争やロボッ トスーツを使った要支援者の搬送等の搬送等の最新機器を用いた競争のようなものを取り入れてもよい。 こうした最新機器の導入を促せば、彼らもPR活動として積極的に関与し、これらの最新機器を導入することで 若者の参加も促進できると思う。	＜今後について＞ 貴重なご意見ありがとうございます。 いただいたご意見は、後期アクションプラン作成時等において参考と させていただきます。

角田市スポーツ推進計画の見直し（案）に関する意見募集（パブリックコメント）に提出されたご意見と市の考えについて

項目等	頁	No	要望・意見等	市の考え方
3 オリパラ等によるスポーツへの関心の盛り上げがりを契機に全市の市民がスポーツに参画するきっかけ創出	47	10	市として「正しいバスケットボールチーム」を支援するという方向性が示されており、2020年の東京オリパラへ向けて市民の関心を高め、応援する機運を盛り上げることが必要。そのためには、メディアやSNSを積極的に活用し、全国に情報を発信していくことが求められる。 各府県間中には市内の学校とチームが積極的に交流を持つことで、子どもたちのスポーツに対する関心を高め、促すことができる。 そこで、角田市が積極的に障害者スポーツを支援するまちづくりにシフトしていくことが望まれる。	今回の計画の見直しにおいては、いままですスポーツに関心がない方も含めたすべての市民がスポーツに参画するきっかけづくりとして、2020東京オリパラ、全日本女子車いすバスケットボール角田合宿、Kスボと連携した道の駅かくたとの連携を上げております。 今後について> 平成31年5月20日から26日に全日本女子車いすバスケットボール角田合宿が行われますので、いただいたご意見を「全日本女子車いすバスケット強化合宿を支援する会」と共有しながら、検討していきます。 また、「障害者スポーツを支援するまちづくりへのシフト」について、具体的にどのような取り組みが可能かどうか、後期アクションプランにおいて検討いたします。
(4) 推進体制の整備プロジェクト (3つの柱) 1 スポーツ行政の改革	48	11	全日本女子車いすバスケットボールチームの合併時にもっと多くの子供たちが関わってほしいと長かったのではないが、学校や団体を限定せず、もっと幅広く市民に周知できたら来場者の増加につながったのではないかと。 その中でも、スポーツ少年団の団員は練習見学、北角田中学校の3年生の体験会などは、大変貴重な機会であった。	今回の計画の見直しにおいて、「3本の柱」の「成人のスポーツ活動の充実」において、 かくたスポーツプロジェクトとウエルパーク（総合保健福祉センター）との積極的な連携を追加しております。 今後について> 計画に追加した「積極的な連携」のあり方については、今後のアクションプランにおいて検討いたします。その際にお願いいたします。 ご意見を参考にさせていただきます。
2 スポーツ情報発信の整備・充実	48	13	今回の「後期アクションプラン」の構成(8つのプロジェクト)は、みんなが取り組む風土醸成プロジェクト(3つの土台)があり、推進体制の整備のプロジェクト(3本の柱)、そして本格的な事業推進プロジェクト(3本の矢)は、一般市民には、市役所のホームページや、スポーツ情報誌の分野でないかと理解できないので、情報発信の知見を隅々まで行き渡らせるシステムづくりが必要ではないかと。 そして、最も大事なことは、スポーツを普及する手段として、現にスポーツを楽しんでいるサークルの市民からの称賛する「口コミ」ではないかと思えます。	今回の計画の見直しにおいて、「3つの柱」の「スポーツ情報発信の整備・充実」については、前期アクションプランに引き続き重要な位置づけとしております。 今後について> ご意見いただきました次の点について、具体的にどのように取り組んでいくか後期アクションプランにおいて検討いたします。 ・後期アクションプランの効果的な周知 ・口コミの重要性を認識した周知 ・道の駅かくたとの連携などによるスポーツ関心が少ない方への周知
		14	今後、大会告知やイベント情報を発信することは、大変良いことである。 スポーツ少年団としてもKスボのホームページやSNSを活用し、活動紹介や企画募集などに活用していきたい。	
		15	体育協会ではこれまで情報発信が課題となっており、早急に対策を講じる必要があると認識している。 情報発信については、KスボホームページやSNSを最大限活用し主催する大会や教室の情報を市内外に効果的に発信していくことが大切。また、道の駅かくたとの連携を図りつつ、スポーツに関心がある方々にもPRしていくことを念頭に考えていくべき。	

角田市スポーツ推進計画の見直し（案）に関する意見募集（パブリックコメント）に提出されたご意見と市の考えについて

項目等	頁	No	要望・意見等	市の考え方
3 スポーツ団体・関係者の育成	48	16	体育協会では各加盟協会の後継者育成が課題となっており、早急に対策を講じる必要があると認識している。また、後継者育成業務への取り組みについては、スポーツボランティアの育成も含め、若者が協会の活動に興味・関心を持ってもらえる環境づくりを各加盟協会が検討していかなければならない。	今回の計画の見直しにおいて、「8つの柱」の「スポーツ団体・関係者の育成」については、前期アクシヨンプランに引き継ぎ重要な位置づけとしております。 今後について> ご意見いただきました「スポーツボランティアの育成」「若者が興味・関心をもつ環境づくり」について具体的などのように取組んでいくか後期アクシヨンプランにおいて検討いたします。
(5) 本格的な事業推進プロジェクト ※全般 (3つの矢)	49	17	重点施策の過去のデータは、今後、どのような手を打てば良い結果になるのか、考える必要があり、あくまでも個人レベルのスポーツではなく、チーム単位のスポーツで相互の利点を生かしての相互扶助の精神をベースに、事業推進プロジェクトとして拡充し、本格的な推進を期して居ります。	お互いの利点を生かしての相互扶助精神をベースとするチーム単位の連携について、ご意見ありがとうございます。 「8つの土台」の「今までのスポーツの枠組みを超えた積極的な連携」において、ご意見いただいたチーム単位の連携について整理します。 今後について> スポーツの定義・価値が広がっておりますので、健康づくり、地域づくりを行っている各種団体との連携も視野にいれ、後期アクシヨンプランにて検討いたします。
1 学校と地域での子どもスポーツ活動の推進		18	スポーツ少年団としても協力していきたい。 今後、運動が苦手な子供たちをいかにスポーツに取り込むか、興味を持ってもらうかが課題。学校やスポーツ関係団体と連携して取り組んでいくことが必要。	今回の計画の見直しにおいて、「学校と地域での子どもスポーツ活動の推進」については、前期アクシヨンプランでの準備期間を踏まえ、後期アクシヨンプランにおいて本格的な事業推進を行うこととしております。 今後について> いただきましたご意見を参考に、後期アクシヨンプランにおいて検討させていただきます。
		19	体育協会としても学校との情報共有や連携は不可欠と考える。中学校の部活動が制限されるなか、子どもたちのスポーツを行う機会が明らかに減り、スポーツ人口の減少にも繋がることが懸念される。 中学生の部活動を補える体制を検討していかなくてはならないと考える。 家庭の事情などにより子どもたちがスポーツをやりにくくならない環境の改善する仕組みを検討していく必要があると考える。	
2 成人（働く世代）のスポーツ活動の充実 他		20	何故、今、スポーツが必要なのか？人生100年時代に突入した現在、介護予防を充実し、介護保険に頼らないで済む、市民を増やすにはどうしたら良いのか、誰でも健康で長生きしたいのが当たり前の事です。 「市民一人1スポーツ」は、いつでもどこでも生活の中で自然にスポーツに親しめる、「スポーツ・イン・ライフ」を目指し、明るく健康で活力溢れたまちづくりの実現のため、スポーツ人口を増やすにはどうしたらよいのか？ 角田市の「スマカ」は利用者が喜んで参加できるシステムであると思います。 それは「スマカ」健康ポイント対象事業で、身体を知る（各種健診）・運動を知る（健康づくり運動体験）・運動を継続する（運動教室登録加入）等々、角田市は健康づくりのサポート体制が出来て居ります。	今回の計画の見直しにおいて、「成人（働く世代）のスポーツ活動の充実」については、前期アクシヨンプランでの準備期間を踏まえ、後期アクシヨンプランにおいて本格的な事業推進を行うこととしております。 今後について> ご意見いただきました「スマカ（スマートかくだチャレンジカード）」とスポーツとの連携」については、後期アクシヨンプランにおいて検討いたします。
		21	角田市地域振興公社では総合体育館を中心にスポーツ教室やフットサスなど、市民の健康増進に繋がる事業を進める計画を検討しています。	市民の運動実施率の向上、健康増進にむけて、新たな事業検討がありとうございます。

角田市スポーツ推進計画の見直し（案）に関する意見募集（パブリックコメント）に提出されたご意見と市の考えについて

項目等	頁	No	要望・意見等	市の考え方
3 かくた版のスポーツ ツーリズムの推進	49	2 2	阿武隈リバーサイドマラソン大会と道の駅の連携を図り、走る人だけでなく、家族や応援者も参加できるような魅力あるイベントとして、広く情報を発信し、マラソン参加者が角田市で観光していただけるような取り組みを推進していく必要がある。 また、大会を支えるスポーツボランティアの育成を進め、市民の意欲高揚を図ることが急務である。 観るスポーツとして、プロスポーツの誘致を進めていき、市民がスポーツの素晴らしさや感動を体験できる機会を創出することが望まれる。併せて支援する組織の充実も求められる	今回の計画の見直しにおいて、「かくた版のスポーツツーリズムの推進」については、前期アクションプランでの準備期間を踏まえ、後期アクションプランにおいて本格的な事業推進を行うこととしております。 今後について いただきましたご意見について具体的ななどのように取組んでいくか後期アクションプランにおいて検討いたします。
		2 3	Kスポーツ内で開催の大会時など、各種団体でもPRしていくべき。	
		2 4	4月には道の駅かくたがオープンします。スポーツ施設と道の駅の連携を図りつつ、施設の利便性向上に努め、流入人口の拡大や地域経済の活性化に繋げていく所存です。	



計画見直しに係る審議経過

内容

年 月 日	経 過	備 考
平成30年 5月24日	教育委員会から角田市スポーツ推進審議会会長へ計画の見直しについて諮問	
平成30年 5月31日	第1回角田市スポーツ推進審議会	計画見直しの基本方針の審議 前期期間の評価
平成30年10月23日	第2回角田市スポーツ推進審議会	計画見直し骨子の審議
平成30年12月25日	第3回角田市スポーツ推進審議会	計画見直し案 全体の審議
平成31年 1月25日～ 平成31年 2月25日	パブリックコメント実施	意見提出者 7 意見・提言数 24件
平成31年 3月 6日	第4回角田市スポーツ推進審議会	パブリックコメント審議 最終案 審議
平成31年 3月20日	教育委員会にて計画見直し(案)審議	



角田市スポーツ推進審議会委員名簿(H30)

委員

No.	所 属	氏 名	備 考
1	仙台大学講師	弓田 恵里香	
2	全日本女子車いすバスケットボールヘッドコーチ	岩 佐 義 明	
3	角田市体育協会 前会長	石 黒 勝 昌	会長
4	角田市体育協会 会長	草 間 進	
5	NPO法人スポーツコミュニケーションかくだクラブマネージャー	遠 藤 良 則	
6	角田市スポーツ少年団本部 本部長	只 野 良 子	
7	角田市社会福祉協議会 事務局長	佐 藤 孝 一	
8	角田小学校 校長	永 井 哲	副会長
9	北角田中学校 校長	齋 藤 祐 一	
10	角田児童センター館長	河村 富美江	

事務局

No.	所 属	氏 名	備 考
1	教育委員会教育長	佐 山 富 夫	
2	生涯学習課課長	高 橋 喜 隆	
3	同課課長補佐	矢 戸 早 苗	
4	同課スポーツ振興係長	国 井 康 士	
5	同課同係主任専門員	笠 松 直 人	

第8節

角田市スポーツ推進審議会条例

(設置)

第1条 スポーツ基本法（平成23年法律第78号。以下「法」という。）第31条の規定に基づき、角田市スポーツ推進審議会（以下「審議会」という。）を置く。

(所掌事務)

第2条 審議会は、角田市教育委員会（以下「教育委員会」という。）の諮問に応じ、次に掲げる事項について調査審議する。

- (1) 法第10条第1項に規定する地方スポーツ推進計画に関すること。
- (2) 法第35条の規定による補助金の交付に関すること。
- (3) 前2号に掲げるもののほか、スポーツの推進に関する重要事項に関すること。

2 審議会は、前項に規定する事項のほか、スポーツの推進に関する重要事項について、教育委員会に意見を述べることができる。

(組織)

第3条 審議会は、委員10人以内で組織する。

2 委員は、次の各号に掲げる者のうちから教育委員会が委嘱又は任命する。

- (1) スポーツに関する学識経験のある者
- (2) スポーツ関係団体の代表者
- (3) 関係行政機関の職員

(任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第5条 審議会に会長及び副会長を置き、委員の互選によって定める。

2 会長は、会務を総理し、審議会を代表する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 審議会の会議は、会長が招集し、その議長となる。

2 審議会の会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

3 審議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委任)

第7条 この条例に定めるもののほか、必要な事項は、会長が審議会に諮って定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、平成25年4月1日から施行する。

(会議の招集の特例)

2 この条例の施行の日以後において、最初に招集する審議会の会議は、第6条第1項の規定にかかわらず、教育長が招集する。



第26回阿武隈リバーサイドマラソン大会より

KAKUDA SPORTS PROMOTION PLAN

角田市スポーツ推進計画

平成26年3月策定

平成31年3月改定

編集・発行

角田市教育委員会生涯学習課

〒981-1505 宮城県角田市角田字牛館10

TEL:0224-63-2221 FAX:0224-63-5633

e-mail: gym@city.kakuda.lg.jp